

327
874

製糖株の現在及将来



始



副島商店調査部編纂

製糖株の現在及將來

327-874



緒言

歐洲ノ動亂ハ有史以來未ダ曾テ見ザルノ大事件ニシテ、全世界ヲシテ其渦中ニ投ゼズンバ止マズ、斯クシテ戰亂ノ影響ハ交戰國ト非交戰國トヲ別タズ、殆ント世界ノ全面ニ波及シ、政界ト云ハズ財界ト云ハズ將又思想界トヲ問フコトナク總テノ方面、アラユル階級ヲ通ジテ革命的大波瀾ヲ捲キ起サシメタリ、我が經濟界ノ如キモ亦絶大ノ影響ヲ蒙リシト雖モ、其ノ波動タルヤ幸ニシテ良好ナル効果ヲ齎ラシ、多年輸入超過ヲ常態トシタリシ外國貿易ハ、俄カニ此ヒヲ轉ジテ輸入超過國ハ一朝ニシテ輸出超過國トナリ、貿易ノ發展ト軍需トノ注文トハ我商工業ノ振興ヲ促ガシ正貨ハ日ヲ逐フテ流入シ、金融ハ益々緩漫ニシテ遊金隨處ニ山積シ、金利ハ愈々低落シテ其底止スル所ヲ知ラズ、此ニ於テカ競フテ有利ナル放資物ヲ索リテ相後レザラントシ、公債社債ノ如キ確實ナル放資物ハ已ニ相當ニ注目セラレ、株式界モ亦戰爭ノ終熄ヲ俟ツ能ハズシテ夙ニ活躍ヲ開始シ、諸株一樣ニ買氣ヲ促進シ、戰時株ニ次グニ普通株ヲ以

5. 9. 4
内交

二
テシ又之ニアグニ戰後株ト云フガ如ク、漸次割安物ニ向ツテ撰擇推進シツ、
アリ、而シテ目下人氣ノ中心トナリ問題ノ焦點トナレルモノハ我が製糖株ト
紡績株トニ在ルカ如シ。

當商店調査部ハ常ニ放資物ニ對シテ綿密ナル調査ヲ怠ラズ、時々其ノ結果ヲ
冊子トシテ出版シ以テ放資家諸君ノ參考ニ資シツ、アリ、殊ニ製糖株ニ就テ
ハ先年『製糖篇』ヲ出版シ又昨年九月『製糖株ノ研究』ナル一書ヲ刊行シタリ
シモ、其ノ後糖業界ノ大勢ハ著ルシク變化シ、製糖會社ノ内容モ亦己ニ革マリ
シモノ尠ナカラザルヲ以テ、爾後一年間ノ調査資料ニ基キ茲ニ新タニ本書ヲ
編纂刊行シテ諸君ノ參考ニ資スル事トナシタリ、但憾ムヲクハ其機會ヲ失セ
ザランユトナ恐レ、豫定ヨリ出版期ヲ早メタルガ爲メ内容ノ稍々意ニ滿タザ
ル所アリト雖モ、記述スル所最モ公平ヲ主トシ、大體ニ於テ大過ナキヲ信ジテ
疑ハズ聊カ諸君ノ參考資料タルヲ得バ幸也。

大正五年九月

編者識

製糖株ノ研究

目次

第一章 砂糖ノ世界的不足時代	一
其一 戰爭ノ生産ニ及ボシタル影響	二
其二 世界的需給徑路ノ變化	六
第二章 我カ糖業界ノ黄金時代	八
其一 臺灣糖今期ノ生産額豫想	八
其二 糖價ノ騰貴ト風水害	一〇
其三 對支輸出ト生産費問題	一〇
第三章 製糖株ノ放資ト株式研究	一二
其一 糖界ノ花形タル大日本製糖株	一三
其二 樂觀サル、鹽水港製糖株	二一
其三 堅實ナル臺灣製糖株	二八

其四	優良ナル東洋製糖株	三四
其五	異彩ヲ放テル新高製糖株	四二
其六	見込アル帝國製糖株	四六
其七	確實ナル明治製糖株	五〇
其八	新進ノ臺南製糖株	五三
附	録	
	各社貸借對照表、損益計算書、利益金處分、重役氏名、大株主氏名	五七

目次終

製糖株ノ研究

第一章 砂糖ノ世界的不足時代

砂糖ハ他ノ日用品ト異リ、人種ノ如何ヲ問ハス、風俗習慣ノ差別ナク、各國民各人種共ニ殆ント同一ノモノヲ使用スルカ故ニ商品トシテノ價值ハ世界共通ニシテ其需給關係モ亦世界的ナリ、故ニ若シ一地方カ豊作ナレハ忽チニ生産過剩トナリテ世界ノ糖價ヲ低下セシメ、一國カ凶作ナレハ亦忽チニ供給不足トナリテ糖價ハ世界的ニ奔騰シ、一國一地方ノ豊凶ト雖モ忽チニシテ世界的波動ヲ生シ、其ノ影響ノ敏ナル眞ニ驚クニ堪ヘタルモノアリ、然レハ歐洲ノ動亂ニ際シテ甜菜糖ノ各生産國カ孰レモ戰亂ノ渦中ニ投セラレ、世界ノ市場カ其ノ供給ヲ阻碍セララルモノ茲ニ二年有餘ニ及ヘルノ今日ニ於テハ、爲メニ世界的需給經路ノ一變シ、延イテ糖價ノ昂騰ヲ見ルニ至リタル敢テ怪シトスルニ足ラス、加フルニ彼ノ砂糖ノ大需要國タル英國カ嚴ニ敵國ヨリノ輸入ヲ禁止シ、同國政府カ敵國以外ヨリ專賣的ノ買付ヲ爲シタルノ事實ハ、世界ノ糖價ヲシテ愈々突飛ナル昂上ヲ告ケシメタルナト、現時ノ糖界ハ誠ニ波瀾重疊、斯界有リテ以來稀ニ見ルノ興味アル時代ヲ現出シタルナリ、依テ今茲ニ戰爭カ糖業界ニ及ホシタル影響ノ如何ニ甚大ナルカヲ説キ、延イテハ世界的需給經路ノ如何ニ變化シタルカヲ述ハ、

以テ投資者諸君ノ參考ニ資スル所アラントス。

其一 戦争ノ生産ニ及ホシタル影響

戦争前即チ大正二年ヨリ同三年ニ至ル世界ノ産糖總額ハ甘蔗糖九百八十九萬噸、甜菜糖八百八十四萬噸合計一千八百七十三萬噸ナリシガ、以上ノ産額カ今回ノ戦争ニ於テ如何ナル影響ヲ受ケタルカラ明確ニセン爲メ、先ツ左ニ其ノ比較表ヲ掲クルコト、セン(左表ハ「ウキレット、グレー」社統計最近ノ調査ニ成ル)

△戦前戦後産糖高比較増減表

世界總産糖額	内	
	甘蔗糖	甜菜糖
至大正二年	一九七三,〇〇〇	八八四,〇〇〇
至大正四年	一六六四,〇〇〇	六二八,〇〇〇
差引増減	(減) 二,〇九四,〇〇〇	(減) 二,五六〇,〇〇〇
増減歩合	一割一步減	二割減

△甘蔗糖主要産地別表	
至大正二年	至大正四年
印度	二四〇〇,〇〇〇
爪哇	一,二四四,〇〇〇
布哇	五五五,〇〇〇
ホルトリコ	三九九,〇〇〇
アルゼンチン	一七五,〇〇〇
ルイジアナ	一一一,〇〇〇
濠洲	一五〇,〇〇〇
モーリシアス	二二六,〇〇〇
比律賓	二六〇,〇〇〇
日本	三七五,〇〇〇
ブラジル	一九四,〇〇〇
秘露	一〇〇,〇〇〇
合計	九,二八〇,〇〇〇
差引増減	(増) 三,八二〇,〇〇〇
増減歩合	一割五分増

△甜菜糖主要産地別表	
至大正二年	至大正四年
印度	二,二九一,〇〇〇
爪哇	一,三四五,〇〇〇
布哇	五五一,〇〇〇
ホルトリコ	三五〇,〇〇〇
アルゼンチン	二六〇,〇〇〇
ルイジアナ	二六一,〇〇〇
濠洲	二五五,〇〇〇
モーリシアス	二五〇,〇〇〇
比律賓	二二五,〇〇〇
日本	二〇四,〇〇〇
ブラジル	二〇三,〇〇〇
秘露	一七七,〇〇〇
合計	八,九六六,〇〇〇
差引増減	(増) 三,二四〇,〇〇〇
増減歩合	一割三分増

獨逸	奧國	露國	佛國	和蘭	白耳義	合衆國	合計
1,710,000	1,710,000	1,710,000	1,710,000	1,710,000	1,710,000	1,710,000	8,000,000
(減)	(減)	(減)	(減)	(減)	(減)	(減)	(減)
10,000,000	6,000,000	1,000,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	5,605,000
三割七分減	四割一分減	六分減	八割一分減	四分增	四割八分減	一割九分增	二割減

△戰前戰後相場高低比較表

銘柄	大正三年七月	大正五年五月	高	低	高低割合
玫瑰馬糖 (紐育相場)	二弗三十仙	五弗六十二仙半	三弗三十二仙高	十四割高	十四割高
瓜哇糖 (倫敦相場)	九志三片	十八志九片	九志六片高	十割三分高	十割三分高
本邦分密糖	十四圓六十錢	十八圓八十錢	四圓二十錢高	二割九分高	二割九分高

今、前表ノ指示スル所ニ從ツテ之レヲ檢スルニ甘蔗糖ノ生産地ハ孰レモ直接戰爭ニ關係ヲ有セサルヲ以テ、戰爭開始後即チ大正四年ヨリ大正五年ニ至ル一年間ニ於テ、其ノ産額四十六萬噸ノ増加ヲ見タ

リト雖モ、甜菜糖ノ産地ハ北米諸州其ノ他ノ一部ヲ除ク外ハ悉ク戰爭ニ參加セサルナク、戰前ノ年産額八百八十四萬噸ノ内北米ノ六十六萬噸、和蘭ノ二十三萬噸合計約九十萬噸ヲ控除シタル九割以上ノ地方ハ悉ク戰爭ノ慘禍ヲ蒙リ、其ノ生産地カ直接戰線區域内ニ入リテ修羅ノ巷ト化シタル地方ハヨシ狭少ナリトスルモ、附近一帶ノ地方悉ク不安ノ念ニ襲ハレテ耕作ニ從事スルコト難ク、又實際耕作ニ從事セントスルモ農民ノ多數ハ鋤鋤ニ代フルニ銃劍ヲ以テシ、蔗園ヲ棄テ、戰線ニ走リタルカ故ニ從業者ノ不足ヲ生シタルハ勿論ニシテ、爲メニ甜菜糖ノ生産額ハ前表ノ如ク二百五十六萬噸ノ減少トナリ、結局甘蔗甜菜ヲ通シテ戰前ヨリハ二百十萬噸ノ減收ヲ來シタル所以ナリトス、又最近ノ入電ニ依レハ歐洲ニ於ケル本年度ノ砂糖植付ハ前年ニ比シ佛國ハ九分七厘、獨逸ハ一割乃至一割二分、奧國ハ一割、和蘭ハ一割七分乃至一割八分、瑞典ハ一割ヲ何レモ増加シタル見込ニテ其結果砂糖産額ハ九十五萬噸ヲ増加スル豫定ナリト云フ、右ハ一面ニ於テ戰爭ノ終期ヲ見越シタルニ依ルナランモ、今日ノ如ク依然トシテ戰局ノ推移セサルニ於テハ耕作意ノ如クナラス、其ノ産糖額ハ結局前年ト大差ナカ

△歐洲産糖額ノ豫想

國 別 一九一五年 一九一六年 明年度豫想

獨逸	佛國	白耳義	和蘭	露國	計
二、五〇〇、〇〇〇	一、六〇二、〇〇〇	三〇二、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	三〇二、〇〇〇	六、九〇五、〇〇〇
一、五〇〇、〇〇〇	一、〇一二、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、五八八、〇〇〇	四、五七〇、〇〇〇
二、〇二四、〇〇〇	一、二八七、〇〇〇	一八六、〇〇〇	一二八、〇〇〇	三〇三、〇〇〇	五、五二九、〇〇〇

其二 世界的需給經路ノ變化

更ニ世界的需給經路ノ變化ニ就テ述ヘンニ、英國ハ一年ニ二百萬噸ヲ消費スル砂糖ノ大消費國ナルカ、由來同國ニハ一俵ノ砂糖ヲモ産セス、全部之レヲ外國ノ供給ニ俟タサル可ラスシテ、主トシテ獨逸ノ砂糖ヲ輸入シタリシカ戰爭ノ勃發ト同時ニ、其カ當然ノ結果トシテ相互ノ通商ハ斷絶シ、英國ハ勢ヒ他ニ其ノ供給ヲ仰カサル可ラサルニ至レリ、次ニ彼ノ佛國ハ如何ト云フニ、同國ハ年々八十萬噸ノ砂糖ヲ消費シ、平和ノ時代ニ於テハ常ニ其ノ消費額丈ケテ自國內ニ産シ、敢テ他ノ供給ヲ受クル必要ナカリシニ開戰後其ノ産糖額ハ著シク減退シテ、本年度ノ如キハ僅カニ十五萬噸ヲ産出シタルニ過キス、爲メニ砂糖消費同盟會ナルモノヲ組織シテ砂糖ノ買付ヲ英國政府ニ一任スルニ至リシナリ、而シテ一

六

方甘蔗糖ノ狀況ヲ見ルニ其ノ主要生産國ハ玳馬及ヒ瓜哇ナルカ、玳馬ハ戰亂以來糖界ノ大勢ヲ察シテ其ノ植付ヲ増加シ、以テ增收ヲ圖リタルヲ以テ本年度(自大正四年至五年)ノ産糖額ハ最初三百二十萬噸ヲ豫想セラレシカ、實收ハ豫想ノ如クナル能ハスシテ一昨年度ヨリ漸ク三十萬噸ノ增收ヲ見タルニ過キス、即チ其ノ産額ハ二百九十八萬噸ニシテ而カモ其ノ内二百萬噸ハ米國へ賣約濟トナリ、歐洲へ輸出シ得ルモノハ僅カニ九十萬噸ニ過キス、更ニ瓜哇糖ハ如何ト云フニ、同糖ノ發達ハ今ヤ其ノ頂點ニ達シテ、蔗園ハ寸土ヲ餘サス戰爭以來如何ニ糖界ニ活躍ヲ見タレハトテ植付ヲ増加ス可クモ非ラズ、試ミニ本年度ノ産糖額ヲ見ルニ總額ハ百二十六萬噸ニシテ、開戰前ノ一昨年度ヨリハ却テ八萬噸ヲ減シタルカ如キ狀況ニ在リ、尤モ此ノ砂糖ハ昨年既ニ處分サレ所謂來年度(自大正五年至六年)ノ新糖ハ昨今既ニ約定サレツ、アリ其ノ産糖豫想額ハ百三四十萬噸ナリト云ヘハ開戰前ト略同額ナリト知ル可シ。

轉シテ消費ノ方面ヲ見ルニ英國ノ砂糖消費額ハ戰亂後稍減シタリト雖モ尙ホ昨年ハ百六十萬噸ヲ輸入シタリ、此ノ英國ノ消費量ニ佛國ノ不足額ヲ加フル時ハ英佛兩國ノ必要總額ハ少クトモ二百五十萬噸ヲ算スルコト明白ナルカ、而カモ玳馬糖ノ輸出力ハ前記ノ如ク百萬噸ヲ出テス、瓜哇糖モ亦輸出貧弱ニシテ英佛ノ需要ヲ滿タスニ足ラス、最近ノ入電ニ依レハ前記百三十萬噸ノ内英佛へノ約定ハ六十五萬噸ニシテ、外ニ印度へノ四十萬噸、支那日本へノ二十萬噸モ約定濟トナリテ今ヤ聊カモ輸出餘力ヲ

七

存セスト云フ、果シテ然ラハ英佛兩國ハ勢ヒ其ノ不足額ヲ我カ臺灣ニ求メサルヘカラサルハ明白ニシテ、最近我カ分密糖カ非常ナル好刺戟ヲ受ケ拾九圓ノ高値ヲ唱フルニ至リシニ見テモ、世界ノ需給關係カ今ヤ漸ク一變シ來レルヲ窺知スルニ足ル可シ。

第二章 我カ糖業界ノ黃金時代

其一 臺灣糖今期ノ生産額豫想

世界的需給關係ノ變化ハ結局我カ臺灣糖ニ大ナル幸福ヲ齎スニ至リ、四十四年期以來暴風雨ノ爲メニ其發展ヲ呪ハレタル臺灣糖モ近年天候ノ平順ニ復シタルト歐洲動亂ノ影響トニ依リテ俄カニ活況ヲ呈シ、生産ノ増加ト糖價ノ暴騰ハ相俟ツテ各社ノ利益ヲ増進セシメ、所謂糖業ノ黃金時代ヲ出現スルニ至リタル爲メ、當業者ハ此機會ヲ利用シテ孰レモ生産ノ増加ニ腐心シ、或ハ精白糖ノ製造ニ、輸出糖ノ擴張ニ各々全力ヲ傾注シツ、アリ、而シテ此黃金時代ハ何レノ時マテ繼續サル可キ歟、此問題ヲ確ムル爲メニ先ツ來年度ノ生産豫想ヲ調査シ、尙之ヲ前期ト對照シテ臺灣糖業ノ前途ヲトスルコト、セシ。

△臺灣各社產糖額豫想 (自大正五年至同六年)

會社名 今期作付甲數 今期產糖豫想 前期產糖額

會社名	今期作付甲數	今期產糖豫想	前期產糖額
臺灣	二六、八〇〇	一、二七八、〇〇〇	一、一四五、七〇四
鹽水	一四、七〇〇	七〇五、七〇〇	三七、八八八
大日本	一一、〇〇〇	五〇五、〇〇〇	六五八、四一一
明治	一五、五〇〇	八〇八、〇〇〇	五四三、八一九
東洋	一五、八〇〇	八一〇、〇〇〇	六四八、四一一
新高	六、五〇〇	四〇〇、四〇〇	七五二、五六五
帝國	七、六〇〇	四〇二、八〇〇	四〇〇、六三四
林源	三、八〇〇	二〇二、〇〇〇	二八一、九八三
臺南	一、五〇〇	四八、二〇〇	一〇三、三八六
新興	一、六四〇	六八、七八〇	一七九、五七〇
臺東	一、一〇〇	二一、〇〇〇	四八、九一二
計	一〇五、九四〇	五、二四九、八八〇	六〇、二八三

即チ前表ニ就テ見ルニ今期ノ植付面積ハ十萬五千甲步ニシテ、其ノ產糖豫想額ハ約五百二十五萬擔ナリ、而シテ之レヲ前期ト比較スルニ植付甲數ニ於テ三千甲、產糖額ニ於テ三十九萬擔ヲ増加スル割合ナリ、尤モ各社ノ豫想ハ臺灣百四十萬俵、東洋九十萬俵、鹽水港七十五萬俵ト云フカ如クニシテ、之

ヲ綜合スルトキハ恰カモ五百五十萬擔ニモ達セントス、故ニ今後多少ノ暴風雨被害アリテ其收穫ヲ一割方減少スルニ至ルモ、結局五百萬擔ヲ下ルコトナカル可キ見込ナリ。

其二 糖價ノ騰貴ト風水害

我カ糖界ニ意ヲ注ケル一部ノ人々ハ謂ヘラク、生産佳良ニシテ糖價ノ昂騰セル本年ノ如キハ非ラス、故ニ今年ハ我カ製糖會社ノ全盛期ニシテ而カモ其ノ絶頂ナル可キカト、然ルニ歐洲戰爭ハ未タ終熄ノ曙光ヲ認ムルニ到ラス、ヨシ假リニ戰爭ハ終熄スルトシテモ砂糖ノ生産ハ俄カニ之レヲ回復ス可クモ非ス、砂糖ノ世界の拂底ハ尙ホ甚シクシテ市價ハ依然トシテ高値ヲ維持スヘキ理由アリ、當分此ノ趨勢ヲ以テ推移スルモノトセハ、來年度ノ臺灣糖ハ多少ノ暴風雨ニ遭遇シタリトスルモ、之レニ依ツテ生スル所ノ損害ハ糖價ノ騰貴ヲ以テ補フニ易ク、來年度モ亦各社ノ好成績ヲ豫想スルニ難カラス、各社ハ依然トシテ黄金時代ヲ夢ムルコトヲ得ヘシ、殊ニ臺灣ノ天候ハ氣壓潮流等ノ關係ニ依リテ或ル期間繼續スルノ歴史アリ凶年豐歲トモ數年間打チ續クヲ例トス、故ニ此二三年間ハ著ルシ暴風雨被害無カル可シト觀測スルモノ多シ、若シ幸ニシテ本年ノ天災期ヲ無事ニ經過スルニ於テハ其產額ハ非常ニ増加シ、各社ノ利益ハヨリ以上ニ莫大ナル可キハ論ヲ俟タサル所ナリ。

其三 對支輸出ト生産費問題

支那ハ砂糖ノ大消費地ナリ、一年ノ消費額實ニ一千萬俵ヲ下ラス、而カモ其消費量一人當リハ僅カニ

二斤三分ニシテ吾カ五分ノ一ニ過キス、從ツテ今後文化ノ程度ノ進ミ生活ノ向上シテ砂糖カ生活ノ必要品タルノ日ニ於テハ今日ノ一千萬俵ハ糖ニ二千萬俵トナリ三千萬俵ニモ増加シ、我カ臺灣糖ノ一大得意トナル可キ素質ヲ具備シツ、アルニ、眼前ニ如斯大消費地ヲ控ヘ居レル日本糖業界ノ現状ハ如何、我カ砂糖貿易モ近來著ルシク發展シテ年額二百二十三十萬俵ノ精製糖ヲ海外ヘ輸出シツ、アリテ、其ノ九割迄ハ支那市場ニ向ケラレ居ルガ故ニ、支那カ消費スル砂糖ノ五分ノ一ハ我カ供給ニシテ聊カ盛ナルカ如シト雖モ、而カモ此ノ日本糖ハ悉ク純粹ノ我カ生産品ニハ非ラスシテ、實ハ我カ大日本製糖會社及ヒ他ノ二三會社カ瓜哇ノ分密糖ヲ原料トシテ精糖シ、之レヲ支那ヘ轉賣シテ僅カニ其ノ工賃ヲ利スルニ過キス、内ニハ多量ノ臺灣糖ヲ生産シ外ニハ間近ク大消費國ヲ控ヘナカラ、我カ產糖ヲ對岸ノ市場ヘ輸出シ能ハサルハ遺憾極リナキ次第ナルモ、此ハ必スシモ絶對ニ不可能ナルニハアラス、一ニ價格如何ノ問題ニシテ若シモ臺灣糖ノ製産費ヲ低廉ナラシムルヲ得ハ、二百萬乃至三百萬ノ過剩糖ハ平時ニ於テモ容易ク消化サレ、戰爭ノ終熄シテ歐洲ノ糖業國カ常態ニ復シタル後ト雖モ、臺灣糖業ノ前途ハ寔ニ洋々タルモノアル可ク、生産費ノ問題ハ實ニ臺灣糖業ノ消長ヲ支配スル重大問題タルナリ、之レヲ前期ノ生産費ニ徵スルモ前期ハ未曾有ノ增收ヲ得タルカ爲メニ、生産費ノ割合極メテ低廉ナリシモ而シテ百斤上リノ平均ハ六圓以上ニシテ、我カ強敵タル瓜哇糖ノ四圓五十錢ニ比スレハ二圓方ノ割高ニ在リ、幸ヒニ我ニハ關稅三圓十錢ノ障壁アリ内地ニ向ツテハ僅カニ此ノ障壁ニ據ツテ防戰シツ

ツアリト雖トモ一步海外ニ踏ミ出サハ對等ノ競争ヲナサ、ル可カラサルナリ、遮莫、我カ臺灣糖モ一甲步當リ七萬斤ノ平均收穫ヲ見ルニ至ラハ瓜哇糖ト殆ント同等ノ生産費トナリ、若シモ一甲步當リ十萬斤トモナラハ遙カニ瓜哇糖ヲ凌駕シ得ル勘定ナリ、而シテ一方瓜哇糖ヲ見レハ既ニ一甲步十萬斤迄ニ漕キ附ケテ、最早之レ以上ニ増産ノ見込ミナキニ反シ、我カ臺灣糖ハ一甲步當リ漸ク四五萬斤ノ所ニアリ、固ヨリ風土氣候ノ相違アルニ因ルヘシト雖トモ蔗園、蔗苗ノ改良耕作、施肥ノ改善等當業者ノ努力如何ニ依リテ、今後ノ發展ヲ期シ得ルコト敢テ吾人ノ贅言ヲ俟タサル所ナリ。

第三章 製糖株ノ放資ト株式研究

製糖株ハ今ヤ最モ有望ナル放資物トシテ世人ヨリ其ノ價值ヲ認メラル、ニ至リシト雖モ、尙ホ一部ニハ製糖株ノ放資ヲ不安ナリトシテ躊躇スル傾向アリ、之レカ爲メニ其ノ株式ノ他ノ工業株ニ比較シテ甚タ割安ニシテ七八乃至一割ノ好利廻リニ相當スルモノ有ルニ拘ラス、其ノ放資ヲ斷行スルノ勇氣ヲ缺ケルモノアルハ誠ニ怯懦笑フニ堪ヘタルカ如キモ、人々カ斯ノ如ク怯懦ナルハ畢竟スルニ未タ深ク其ノ株式ノ實際ヲ研究スルニ遑ナキニ非ラストセンヤ、是ヲ以テ徒ラニ暴風雨ノ被害ヲ怖レ、若クハ彼ノ日糖事件ノ慘禍ヲ追憶シ居ルノミ、而カモ彼ノ日糖事件ノ如キハ過渡時代ニ於ケル當局者ノ暴舉ニシテ再ヒ繰リ返ヘサルヘキ性質ノモノニハ非ス、現ニ其慘禍ノ本家本元タル大日本製糖ノ如キモ今

ヤ改革後ノ社運隆々トシテ、其ノ勢ヒノ熾ンナル遂ニ他ノ工業株ノ壘ヲモ摩サントスルモノ有リ、又製糖業ノ勁敵タル暴風雨ニ對シテモ各社各々備フル所アリ、殊ニ一昨年糖價ノ世界的騰貴ヲ示セル以來、各社ノ收益ハ莫大ナルモノアリテ其ノ準備積立金ハ激増シ、假令一二回ノ暴風雨ニ遭遇スルモ其配當ヲ減スルカ如キ杞憂ナキ迄ニ餘裕綽々タルニ至リシヲ以テ、曾テ猛威ヲ逞フシタル暴風雨モ敢テ恐ル、ニ足ラス、一方糖價ハ益々昂騰シテ相當ノ高値ニ在リ、若シ近ク戰爭ノ終熄スルアリト雖モ世界的供給ノ不足ハ容易ニ恢復スル能ハス、俄カニ其低落ヲ豫想シ得サルニ於テハ、製糖株ノ放資ハ益々有利ナリト信ジ、左ニ各社ノ内容實質ヲ解剖シ、其ノ極メテ有利ナル所以ヲ詳述スルニ努メタリ、

其一 糖界ノ花形タル大日本製糖株

(一) 順調ニ進展セル營業成績

株式市場ノ活躍ト共ニ製糖株ハ皆一様ニ買氣ヲ促シタルモ、取り分ケ人氣ノ中心トナリ問題ノ焦點トナリシモノハ大日本製糖株ニ非ラスヤ、曩日ノ破綻當時ヲ追想スレハ只管ニ現重役ノ手腕ノ有難ク、次テ來リシ増資擴張、對支發展等ノ好材料ニ買人氣ハ沸騰シ、曾テ死活ノ境ヲ來往セシ當時ヲ想ヒ、轉シテ今日ノ盛況ヲ觀ル時ハ蓋シ思ヒ半ニ過クルモノアラン。試ミニ近時ノ營業成績ヲ見ルニ昨年上半期ノ利益金百六十二萬九千圓ハ整理後ニ於ケル『レコード』ナリシカ、前期ハ更ニ二十八萬圓ヲ増

加シテ百九十一萬圓ノ利益ヲ擧ケ、尙ホ新タニ「臺灣工場固定財産減價償却金」ノ一項ヲ設ケテ之ニ二十萬圓ヲ支出セルニ拘ハラズ、二分増シノ一割二分ト云フ好配當ヲ行ヒシハ實ニ既往十期間ニ於ケル新「レコード」ニシテ、同株カ市場ノ人氣ヲ呼ビタルモ無理ナラス、更ニ統計ノ示ス所ニ從ツテ明治四十四年以來ノ營業成績ヲ見ルニ、其ノ利益金及ヒ各種積立基金消却金ノ増加セル割合ハ如何ニモ秩序的ニシテ、一見同社カ賢實ナル發展ヲ遂ケツ、アルヲ看取スルヲ得ヘシ、即チ營業成績ノ比較一覽表ヲ掲クレハ左ノ如シ。

△大日本製糖會社營業成績一覽表

年次	總收入	總支出	支拂利息	差引純益
四十四年上	一四、五〇三	一三、一九四	五五九	七四九
同下	一六、四五九	一五、三〇三	三四〇	八一四
四十五年上	一五、五一一	一四、三五九	二九九	八五三
大正元年下	一九、五四二	一八、二七九	二九五	九六七
同二年上	二〇、四三二	一八、九三九	二五四	一、二三九
同二年下	二〇、三五二	一八、九八五	二五一	一、一一四
同三年上	一八、四四五	一七、〇九五	二一〇	一、一四〇

年次	同下	同上	同下	同上
同下	一八、二六〇	一六、八二八	二〇七	一、二二四
同四年上	一六、一七六	一四、五四七	一六五	一、四六四
同下	一七、七八二	一六、二〇八	一六〇	一、四四一
同五年上	二一、七六四	一九、八五三	一六〇	一、七四九

(二) 同社事業ノ概要

同社(東京、大阪、大里各工場(能力八百五十噸)ニ於テ精製糖ヲ製造シ、臺灣工場(能力二千二百噸)ニ於テ粗糖ヲ産出シ、之レヲ各需要地ニ振り向ケ販賣消化スルヲ以テ營業ノ目的トナス、而シテ其ノ機械能力ヨリ打算スル時ハ精製糖五百萬俵、粗糖五十五萬俵ヲ製出スルニ足り、臺灣粗糖ハ其歲ノ豊凶ト原料甘蔗ノ收穫高ニ應シテ自ラ増減アリト雖トモ試ミニ、一昨年ノ生産高ヲ見レハ合計三十六萬俵ニシテ、三十六萬俵ハ會社ノ重役モ已ニ異常ノ增收トセシニ昨年ハ更ニ増加シテ五十萬俵トナリ、今年ハ更ニ一層ノ增收ヲ豫想サレ居レリ。

斯クテ其ノ製出糖ハ如何ニ之レヲ消化スルヤト云フニ臺灣工場ノ産糖ハ分密糖トシテ直接消費ニ振向クルノ外多クハ自家精製糖ノ原料トスルヲ常トシ、其ノ精製白糖ハ内地ノ需要中約七割ヲ同社ニテ供給シ年額約百二十萬擔ノ間ニ在リ、其ノ他ハ主トシテ支那市場ニ向ケ輸出セラル、ナルカ、其ノ額ハ年々歲々驚ク可キ増加ヲ示シ、昨年ノ如キハ、支那ハ内亂ノ状態ニ在リシニ拘ハラズ尙ホ聊カモ減

退セス、更ニ濠洲印度方面ニモ新規ノ需要起リ前途頗ル有望ナル狀況ニ在リ。

(三) 増資ノ内容ト今後ノ發展

同社ハ去ル六月ノ總會ニ於テ資本金六百萬圓ヲ増加シ、資本ノ總額ヲ一千八百萬圓トナスノ決議ヲナシタリ、新株ノ割當方法ハ重役一任トナリタルカ重役ノ意見ニ依リテ決定シタル内容ハ、九月三十日現在ノ株主ニ對シニ株ニ付キ一株ヲ分配シ十月二十五日マテニ一株ニ付キ二圓五十錢宛ノ證據金ヲ添ヘテ申込マシメ、十二月一日ニ證據金ト合セテ十二圓五十錢ノ拂込ヲ徵スルニアリト云フ、而シテ今回ノ増資ハ主トシテ支那市場ノ發展ヲ目的トシ、昨年藤山社長ノ支那視察中既ニ同氏ノ胸中ニ孕マレシモノニシテ、當初ハ極メテ大規模ノ計劃ナリシニ其ノ後支那動亂ノ勃發ニ遮キラレテ稍逡巡ノ體ニ在リシカ、歐洲戰亂ノ影響ハ遂ニ南洋及ヒ印度ノ新市場開拓トナリ、同社現在ノ能力ヲ以テシテハ所詮供給ノ不足ヲ免カレス、故ニ差當リ大里工場ニ空地アルヲ利用シ曩ニ名古屋製糖ノ買潰シニ依リテ貯ヘ居レル百噸能力ノ機械ヲ其ノ儘同工場ニ据付クル方針ニテ、即チ第一回ノ拂込金ハ主トシテ此方面ニ利用サルコトトナル可シ、而シテ今回ノ増資ハ將來支那市場ニ雄飛ヲ試ムル前提ト見ルヘク、愈々同方面ニ大發展ヲ圖ランニハ更ニヨリ大ナル擴張計劃アルハ勿論ナレハ、同社ノ前途ハ益々多忙ナリト謂ハサル可ラス、支那カ外國ヨリ供給ヲ仰ク所ノ砂糖ハ精製糖約二百萬俵、赤糖約二百萬俵合計四百萬俵見當ナルカ、我カ大日本製糖カ年々支那ヘ輸出スル所ハ百萬俵ヲ上下シ、多キハ百三十萬

ヲ算シ支那市場ノ前途甚タ好望ニシテ、而カモ歐洲戰亂ノ結果獨、埃、露其他ノ產糖國カ著シク生産額ヲ減シタルノ時、當社カ先ツ茲ニ濶踏ノ増資ヲ斷行シ、將來海外市場ニ雄飛スルノ前提トナシタルハ蓋シ機宜ニ適シタルノ措置ナラン乎。

(四) 期毎ニ充實サル、資産狀態

同社ノ資産狀態カ決算期ヲ重ヌル毎ニ充實シツ、アルハ世人ノ認ムル所ナルカ、今此ノ事實ヲ明確ニ立證スルノ資料トシテ、同社ノ破綻當時即チ四十二年上半期末ニ於ケル株主所屬ノ正味財産ト今期ノ夫レトヲ比較センニ實ニ左表ノ如クニシテ眞ニ隔世ノ感ナクンハアラス。

明治四十二年上半期資産狀態

拂込資本金	八、三四六、二八五
法定積立金	九三六、九〇〇
別途積立金	一、二六三、一〇〇
前期繰越金	一一、七三四
合計	一〇、五五九、〇一九
四十二年上半期	二、五八七、三三四
損	七、九七一、六八五
差引(株主財産)	

外ニ

資産整理損失金	五八三、六一一
預ケ金勘定損失金	七二三、七九八
小計	一、三〇七、四〇九
再差引	
株主財産	六、六六四、二七六

(拂込資本ヨリ百六十八萬二千圓少シ)

即チ整理着手當時ニ於ケル同社ノ正味財産ハ六百六十六萬圓ナリ、然ルニ今日ノ財産ハ左表ノ如クニシテ、吾人カ隔世ノ感アリト云フヲ誇大ノ言トナスモノハ、先ツ左表ヲ對照スルニ至リテ初メテ會得ナル所アルヘシ。

大正五年上半期資産状態

拂込資本金	一一、〇〇〇、〇〇〇
法定積立金	五九五、〇〇〇
別途積立金	二、六〇〇、〇〇〇
大里工場金	二、〇〇〇、〇〇〇
大里工場金	二、〇〇〇、〇〇〇

前期繰越金

合計	七二九、二九二
株主財産	一七、九二四、二九二
株主財産比較	一七、九二四、二九二

△株主ノ財産比較

四十二年上半期末ノ株主財産	六、六六四、二七六
大正五年上半期末ノ株主財産	一七、九二四、二九二
差引	一一、二六〇、〇一六

内

同期間ノ拂込株金	三、六五三、七二五
再差引	
株主ノ財産増加額	七、六〇六、三〇一

即チ現在ノ株主財産ハ破綻當時ニ比シテ實ニ七百六十萬圓ノ増加ニシテ、若シモ之レニ今期ノ法定別途兩積立金及ヒ大里工場消却金並ニ今回新タニ設ケラレタル臺灣工場固定財産消却金ノ四口合計八十四萬圓ヲ加算スルニ於テハ、其ノ額實ニ八百四十四萬六千圓ノ多キニ達ス、而シテ藤山社長カ整理ヲ引キ受ケタリシ當時ハ社債七百萬圓、年賦借入金四百十萬五千九百五十六圓合計一千百十萬五千餘圓

ノ大負債アリシニ、今ヤ兩者合シテ三百八十二萬二千餘圓ニ過キササルニ至リ、斯クテ今後三年ヲ經過スルニ於テハ社債及ヒ年賦借入金ノ全部ヲ償還シテ、千二百萬圓ノ拂込資本ヲ以テ一千七百萬圓ノ固定資本ト三百萬圓ノ流動財産ト有スルニ至ルノ計算ニテ、内容ノ充實セル真ニ刮目ニ價スルモノアリ。

(五) 同社株式ノ前途觀

同社ノ株式ハ五十圓拂込ノモノ時價九十四五圓ニシテ内新株ノ「プレミアム」ヲ一株ニ付二十圓ト推定シ其半額十圓ヲ引去ルトキハ八十四五圓ニ當リ前期配當率一割ニ對シテ七七一厘強ノ利廻リニ相當ス、而シテ前記ノ如ク莫大ナル積立金繰越金ヲ擁シ財産狀態健全ニシテ營業成績亦益々良好ナル同會社ノ如キ尙多望ナル前途ヲ有スル株式カ七朱以上ノ利廻リニ在ルハ尙ホ格安ナリト謂フヘシ、說ヲ爲スモノアリ曰ク、大日本製糖ハ今回増資ノ結果次期ニ於テハ其ノ利益減少スルニ非ラサルカト、而カモ常ニ要慎深キ藤山社長ハ曰ク『増資拂込額百五十萬圓ニ對シテ一割ノ配當トスレハ年々十五萬圓ノ配當ヲナサ、ル可ラスシテ、當事者ノ責任ハ甚タ重キヲ加ヘタリト雖トモ、吾等カ將來相當ノ配當ヲ爲シ得ルト確信スル以上、而シテ事實ニ於テ確乎タル見込ノ確立シタル上ハ、固定資本ハ借入金ノ容易ナルヲ棄テテ株主ノ出資ニ俟ツノ至當ナルヲ信ス云々』ト、以テ同株ノ前途ヲ窺知スルヲ得可ク今後南洋及ヒ支那市場ニ向ツテノ發展ハ一層其利益ヲ増進シ配當率ノ如キモ既往六七七年間ニ於ケル

漸進的歩調ヲ辿リテ前期一割二分ヨリ次第ニ向上シ二割ニ達スル日ハ決シテ遠キ將來ニ非ラサルヘシ、サレハ七朱利廻リトシテノ同株ハ最モ有利ナル放資物ト信スルナリ。

其二 樂觀サル、鹽水港製糖株

(一) 同社事業ノ内容及業況

當社ハ從來低利ナル借入金ヲ利用シテ割高ナル利潤ヲ收メ、高率ノ配當ヲ爲スヲ以テ糖界ノ飛將軍ト稱贊ヲ博シ來リシニ、四十五年來ノ天災ニ接シテ少ナカラサル打撃ヲ蒙リタル爲メ茲ニ營業ノ方針ヲ一變シ、専ラ内容ノ充實ヲ計リツ、アリシカ、一昨年以來引續キ業績頗ル良好トナリ各種ノ積立金亦著シク増加シテ前日ノ悲觀ハ今日ノ樂觀ト變シ、鹽水港製糖株ハ確實ニシテ有利ナル放資株ナリトノ世評ヲ受クルニ到レリ、今試ミニ同社事業ノ内容ヲ檢スルニ其ノ營業事項ハ(一)砂糖ノ製造販賣及ヒ其ノ副業、(二)土地開墾、甘蔗米穀其ノ他ノ農作、樟腦採收、採礦、牧畜、(三)會社専用鐵道及ヒ輕便鐵道ニ依ル旅客並ニ貨物ノ運輸業等ニシテ、其ノ主ナル事業ニ就テ施設ノ大要及ヒ營業狀況ヲ略記スレハ左ノ如シ。

(イ) 製糖業

當社ハ明治三十六年十二月ノ創立ニシテ、四十年ノ二月現社長荒井泰治氏等ニ依ツテ資本金五百萬圓ノ新組織ニ改造セラレ、更ラニ四十二年同一系統ノ高砂製糖ヲ合シ、近ク又臺東拓殖製糖ヲ併セテ茲

ニ現今ノ大會社トナリタルカ、四十四年迄ハ最モ順調ニ經過シ、株主配當ノ如キモ能ク二割ノ高率ヲ維持シ、製糖高モ亦五十萬俵以上ニ達シタリシカ、四十五年度以降毎年相次テ起リタル暴風雨被害ノ爲メニ社運ノ發展ヲ呪ハレ、製糖高ハ著ルシク減少シ甚シキハ辛フシテ十二萬俵ノ產出ヲ見タルニ過キサル年モ有リテ、頗ル悲觀ノ状態ニアリシカ一昨年ヨリ漸次作柄ヲ見直シ同年ハ四十萬俵ノ產額ヲ得テ豫想外ノ好成绩ヲ示シ、前年度ハ復更ニ活況ヲ呈シテ其ノ植付甲數ハ一萬三千三百七十甲ニ達シ、發育亦良好ニシテ甘蔗壓搾ノ斤量ハ總計六億六千八百六十三萬餘斤ノ多キヲ算シ、產糖高ハ六十五萬八千四百一十一俵ニシテ創業以來ノ新レコードヲ作ルニ至リ、今年度ハ更ニ多大ノ增收ヲ期待サレツ、アリ、若シ風水害ノ襲來ナキニ於テハ意外ナル增收ヲ見ルニ至ル可キ歟。

(ロ) 土地ト開墾

製糖業ノ最モ安全ナル經營ハ其ノ原料甘蔗ノ自作農園ヲ所有スルニ在リ、彼ノ布哇、瓜哇ノ各製糖所カ概ネ其ノ原料ヲ自作農園ニ俟ツハ一ニ此ノ理由ニ依ルナリ、獨リ我カ臺灣ハ新開ノ邦土ニ非スシテ、製糖會社ノ起リタル西部臺灣ハ開發既ニ久シクシテ各地主ノ一定セルアリ、故ニ土地ノ買収容易ナラサルモノアリ、是ヲ以テ多數ノ製糖會社ハ何レモ總督府所定ノ原料採收區域ナルモノヲ特ミトシテ起リタル次第ナルカ、我カ鹽水港製糖會社ハ深ク茲ニ鑑ミル所アリ、其ノ重役ハ荒井社長ヲ始メ、シテ其ノ他多クハ久シク臺灣ニ定住シテ幾多ノ便宜ヲ有スルヲ以テ、土地獲得ニ腐心スルコト最モ深ク現

ニ其ノ所有スル地積ハ總計一萬三千町步ヲ算シ、他ノ同業者ニ比シテ著シク優勝ノ地位ヲ占メツ、アリ、今其ノ内譯ヲ視ルニ旗尾工場附近ニ於テ約三千二百町步、新營庄工場附近ニ於テ約一千五百町步アリテ是等、全部甘蔗耕作ニ充用シ得可ク而シテ又東部臺灣即チ花蓮港方面ニ於テハ豫約拂下地約八千町步ヲ有シ、其ノ内牧場植林地タルニ止マルモノ三千町步ヲ差引キタル殘リ五千町步ハ純然タル自作農園トナシ得可キモノニシテ、大正五年六月末ニ於ケル現在開墾面積ハ一千八百二十餘町步ニ達シ居レリ、其ノ他會社所有ノ土地ニ非サルニ甘蔗ノ植付ケニ充當センカ爲メニ土地ノ賤耕契約(永年小作)ヲ結ヒテ使用權ヲ獲得シタルモノハ民有地二千三百三十九町步、官有地約百町步ナリ。

(ハ) 牧 畜

東部ニ於ケル牧場豫約拂下地ノ開墾ハ大埔尾、加路蘭ノ兩地ヲ除ク外全部成功ヲ告ケ、畜牛ハ總督府ヨリ純良ナル種牛ノ貸下ケヲ受ケテ牛種ヲ改良シ、繁殖ヲ助長シ遺憾ナキ成績ヲ擧ケツ、アリ、今其ノ成績ヲ統計ノ指示スル所ニ依リテ明確ニセハ牧場ノ豫約拂下面積ハ五千六百八十九町步、内實地開墾成功面積四千二百〇三町步ニシテ、蓄牛ノ總數ハ二千三百三十二頭ナリ。

(ニ) 製 糖 業

大正四年七月ヨリ翌五年六月ニ至ル一ケ年間ノ成績ヲ見ルニ、其ノ生産額ハ豫定ノ斤量ニ達シ居ラズ、右ハ璞石閣方面ノ防蕃ノ必要上鐵條網ヲ布設シタルカ爲メ、其ノ線外ニ當ル腦灶百四十灶ハ全部之ヲ

引上ケ、更ラニ之レヲ太魯閣及ヒ木瓜ノ兩山ニ移轉スルノ止ムナキニ至リ、其ノ間數ヶ月ヲ費シタル等ノ事情ニ依ルモノナルカ、討伐歸順後ハ成績良好ニシテ製腦地ノ如キハ其ノ選定隨意ナルノミナラス、殊ニ璞石閣方面四十灶ノ減灶ニ對シ、更ニ大魯閣及ヒ木瓜山へ百六十灶ヲ許サレタルヲ以テ、從來ニ比シ却テ生産能力ヲ増加スルニ至レリ、現在ノ腦灶及ヒ腦丁數左ノ如シ。

腦 館	腦 灶 數	腦 丁 數
花 蓮 港 腦 館	三六〇	八二六
她 佳 腦 館	一三〇	二三〇
璞 石 閣 腦 館	二六五	五九三
合 計	七五五	一、六四九

(ホ) 鑛 業

目下花蓮港廳下銅文蘭銅鑛ノ一日採鑛高ハ六百貫以上ニシテ、今後十ヶ月ヲ經過セハ採鑛五六千貫ニ達スルノ見込アリ、又同廳下タツキリ溪ニ於テ砂金採取ノ目的ヲ以テ、鑛區約百萬坪ノ許可申請中ナルカ、總督府ノ意嚮ハ製糖業ト鑛業トヲ分離スル條件ノ下ニ許可セントスルノ模様アリ、會社側ニテモ亦之レニ策應シテ新會社ヲ設立シテ鑛業ヲ分離セントスルノ計劃アリ、今其ノ内容ヲ聞クニ新鑛業會社ハ資本金ヲ三百萬圓トシ、四分ノ一拂込ミニテ營業ヲ開始シ、鹽水港ハ約五十萬圓ニテ同社ノ

鑛業設備ヲ新會社ニ讓渡シ、此ノ代金ハ積立金ニ繰リ入レテ將來ノ發展ニ供ヘ、新會社ノ株式ハ鹽水港株主ニ對シ三株ニ就キ一株ノ割合ヲ以テ割當テラル、ニ至ランカト云フ。

(ハ) 鐵道運輸

當社ノ西部幹線延長ハ一百四十三哩ニシテ、機關車十四臺、諸車九百七十七輛ヲ運轉シツ、アリ、內營業線ハ三十七哩八分ニシテ、外二十二哩ノ營業貨物線アリ、前年度ニ於ケル運輸營業ハ連年市況不振ノ後ヲ承ケ概シテ良好ナラサリシモ、六龜里發電所工事用「セメント」其他ノ臨時託送アリタルト、布袋嘴ニ於ケル產鹽ノ激增等ニ依リ結局前期以上ノ收益ヲ見、二十二萬二千圓ノ收入ヲ計上シタルモ當社ノ鐵道事業ハ營業事項トシテ、格別ノ注意ヲ拂フ程ノモノニハ非ス。

(ト) 製品販賣

當社ハ直接消費糖及ヒ原料糖ノ外白糖ノ製造ニ意ヲ注キツ、アリ、同社ノ白糖ハ過去數年來研鑽ノ結果トシテ結晶色相共殆ント理想的ニ近ク白双目糖ハ優ニ内地精糖ノ品質ヲ凌駕シ、殊ニ印度市場ニ於テハ瓜哇 Tino ト同格品トシテ市場ノ好評ヲ博シ、白車糖モ亦色相昂上セルノミナラス、光澤ニ富ミ風味佳良ナルヲ以テ對岸各市場ニ於テ歡迎ヲ受ケ、他ノ精糖ニ比シ十錢乃至十五錢高ヲ以テ取引セラレツ、アリ、更ラニ瓜哇濠洲ノ減産ハ新需用ヲ惹起セルヲ以テ各社協力シテ香港及ヒ濠洲ニ新販路ヲ開拓シタリ。

一面英國ニ於ケル買占メ政策ハ糖價ノ上騰ヲ來シ、隨ツテ國內相場モ益々強硬ヲ唱フルニ至レルヲ以テ、其ノ機ヲ逸セスシテ分密糖竝ニ白糖ノ大部分ヲ賣却シ、糖界ノ波瀾重疊ナルノ間常ニ商機ヲ逸セス、能ク前記ノ如キ好成績ヲ擧ケ得タルハ當社販賣政策ノ成功ト謂ハサルヘカラス。

(二) 今期ノ収益ト配當豫想

同社今期ノ植付甲數ハ約一萬五千甲步ニシテ、植付以來氣候適順且ツ發育良好ニシテ未タ何等ノ被害モナク、若シモ此ノ儘ニシテ經過シタランニハ豫想ノ如ク七十五萬俵ノ產糖ヲ得ヘキコト敢テ困難ナラス、ヨシ今後多少ノ風水害ヲ蒙リタリトスルモ今期ノ產糖額ハ七十萬俵ヲ下ルコト無カルヘシ、而シテ其ノ歲ニ於ケル產糖高ノ多少ハ直チニ生産費ノ割合ニ影響スルハ勿論ニシテ、四十萬俵ノ產糖ニ對シ一俵七圓ノ生産費ヲ要シタルモノハ、六十萬俵ナレハ六圓見當ニ減額サル、勘定ニテ前期ノ生産費ハ六十五萬擔ニシテ六圓内外ナリシカ故ニ、今期ハ無論六圓以下ト見テ差支ナク、又一方糖價ハ諸種ノ事情ニ依リテ明年度ハ尙ホ能ク本年ノ如キ高値ヲ維持スルノ理由アルヲ以テ一俵當利益六圓以上ヲ得ルコト決シテ至難ニ非ラス、原料糖及ヒ輸出糖ヲ通シ平均五圓ノ純益ト見ルモ其產糖額七十萬俵ニ對シ三百五十萬圓即チ拂込資本金ニ對スル純益ハ四割五分ニ相當スルヲ以テ、其ノ半額以内ヲ社外ニ支出スルモノトシ其ノ配當率ヲ舊ノ如ク二割ニ復スルコト亦決シテ至難ナラサルヲ知ル可シ。

(三) 本社ノ財産狀態

當社ハ他ノ製糖會社ト異ナリ借入金本位ヲ以テ經營シ來タリ、過去數年間能ク二割ノ配當ヲナシツ、アリシ矢先、偶々先年ノ災厄ニテ業績ノ不振ヲ免レザリシヨリ、同社ニ對スル世評漸ク悲觀ニ傾キ、其ノ財産狀態亦健全ナラストノ非難ヲ蒙リシト雖トモ、昨年以來社運隆昌、業況頓ニ革マリ、前期ニ於テハ一割七分ノ配當ヲ爲シ、二割配當復活ノ近キニアルヲ想ハシメタルカ、今試ミニ同社ノ積立金ヲ檢スルニ左ノ如シ。

法定積立金	六三三、六〇〇圓
別段積立金	一、四二〇、〇〇〇圓
固定資本消却及積立金	五五〇、〇〇〇圓
職員職工恩給基金	一九五、〇〇〇圓
後期繰越金	二九五、三四七圓
合計	三、〇九三、九四七圓

之レヲ資本金拂込額七百八十七萬五千圓ニ對照スレハ約四割ニ該當スルヲ以テ決シテ不健全ナリト謂フ可ラス尙今期ニ於テ別項記載ノ如ク好成績ヲ收ムルニ於テハ、更ラニ一層ノ積立金ヲ擁スルニ至リ、當社ノ財産狀態ヲシテ、ヨリ多ク健實ノ度ヲ増ス可キヲ疑フ能ハス、又借入金支拂手形ニ於テ三百二十萬ノ負債アリト雖モ之ヲ前々期ニ比スル時ハ一百餘萬圓ノ減少ニシテ、更ラニ之レニ對シテ製品

及ヒ積送品得意先勘定ノ二百八十七萬圓、貸付金銀行預金ノ二百三十萬圓アリ是等ノ負債ト相殺スル時ハ約二百萬圓ノ剩餘トナリ、其他比較的評價ノ低キ土地農場、無形ナル利權等ヲ算ヘ來ル時ハ同社ノ財産状態ノ健全ナルコトヲ看取スルニ足ラン。

(四) 當社株式ノ見込

同社ノ株式ハ三十五圓拂込ノモノ時價七十五圓トシテ、配當率一割七分ニ對照スレハ其利廻リハ八分ナリ、而シテ之レヲ他ノ製糖株ニ比較スルニ、大日本製糖ノ一割二分配當利廻リ七朱、明治ノ一割五分配當利廻リ七分三厘等ニ比シテ甚タ割安ナルノミナラス當社今期ノ營業成績ニシテ若シモ別項記載ノ如クナルニ於テハ、其ノ配當率ハ從前ノ如ク二割ニ復シ、各種積立金モ亦著シク増加スヘキニ依リ、本邦製糖界ノ前途ノ樂觀セラルルト共ニ同株ニ對スル人氣ハ從ツテ集注シ來ルヘク現在一割七分ヲ標準トナスモ七朱ノ利廻リ八十五六圓迄ハ採算上買ノ餘地アリ況ンヤ礦業會社割當ノ權利ヲ見積リ又今期配當ヲ二割ト推定シ得ルノ時機ニ至ラハ百圓ノ相場ヲ現出スルニ至ルヤモ亦知ルヘカラス、故ニ此ノ推定ノ許ニ同株ヲ觀ル時ハ其ノ放資ハ採算上ヨリスルモ、思惑ヨリスルモ甚タ有利ニシテ興味深キヲ想ハサル能ハス。

其二 堅實ナル臺灣製糖株

(一) 同社ノ近況ト發展ノ徑路

臺灣製糖會社ハ明治三十二年十二月ノ創立ナルカ現在ノ資本金ハ二千七百五十萬圓、内拂込一千八百四十萬圓ニシテ其ノ機械能力ハ六千九百八十英噸、耕地約十四萬甲ヲ有シ實ニ我カ臺灣ニ於ケル砂糖耕地ノ四分ノ一ヲ領有セルノ大會社ナリ、即チ曾文溪以南一帶ノ耕地ハ鹽水港製糖ノ旗尾工場所屬耕地ト新興製糖所屬ノ耕地ヲ除キタル以外ノ全部カ臺灣製糖ノ所屬ニシテ、加フルニ同社ハ又本年九月一日彼ノ臺北製糖ノ併合ヲ斷行シタル結果其ノ耕地ハ更ニ増大シテ遠ク北方ニ及ホシ、而シテ其ノ曉ニハ資本金ハ二千九百八十萬圓トナリ、拂込ハ一千九百四十三萬五千圓ニ増加スル筈ナリ、更ニ其ノ產糖額ヨリ見レハ臺灣總產額ノ約四分ノ一ニ相當シ、當社ノ盛衰カ直チニ臺灣糖業ノ消長ニ關係ヲ及ホスニ見テモ略臺灣糖業界ニ於ケル當社ノ地位ヲ察スルニ足ラン、今同社發展ノ徑路ヲ知ルノ便宜上利益金ノ増大セル順序ヲ數字ヲ以テ現ハセハ左ノ如シ。

年次	利益金	對拂込資本割合	配當率
四十年六月	二六六、〇〇〇	一、六七	一、〇〇
四十一年六月	四七二、〇〇〇	一、一〇	一、〇〇
四十二年六月	一、六五六、〇〇〇	三、〇一	一、四〇
四十三年六月	二、九六五、〇〇〇	三、四四	一、二〇
四十四年六月	三、六六〇、〇〇〇	二、九五	一、二〇

四十五年六月	三、一四七、〇〇〇	一、九七	一、二〇
大正二年六月	一、四六〇、〇〇〇	八八	一、二〇
同 三年六月	二、三〇〇、〇〇〇	一、三〇	一、二〇
同 四年六月	三、五四二、〇〇〇	一、九二	一、二〇
同 五年六月	六、〇二〇、〇〇〇	三、二七	一、六〇

即チ明治四十年ヨリ今年ニ至ルノ十ケ年間ニ於テ、三割以上ノ好成绩ヲ擧ケタルハ四十二、三年及ヒ今年ノ三ケ年ニシテ、殊ニ今年度ハ數年來稀レニ見ルノ好成绩ナリシ也。

(二) 前年度ノ成績解剖

同社前年度ノ利益金ハ前表ノ如ク六百〇二萬圓ニシテ、其ノ利益處分法ハ普通配當一割二分、特別配當三分、臨時配當一分合計一割六分トナシタルカ、之レニ依ツテ見ルニ流石ニ増配嫌ヒノ同社モ一ニハ利益ノ多カリシト、一ニハ又他社ノ増配類々タルトニ動カサレテ臨時配當ナト苦シキ名稱ノ下ニ増配ヲ決行シタルヲ知ル可シ、今此ノ處分案ニ依リテ社内保留ト社外分配トノ場合ヲ檢スルニ左ノ如シ。

當年度利益金	六、〇二〇、六七三
内	
一 固定資産消却金	八〇〇、〇〇〇

法定積立金	二六五、〇〇〇
別途積立金	四〇〇、〇〇〇
配當平均準備積立金	六〇〇、〇〇〇
恩給扶助基金	五〇、〇〇〇
職工農夫扶助基金	二〇、〇〇〇
繰越金増加額	七一一、六七四
計	二、八四六、六七四
株主配當金(一割二分)	二、二〇八、〇〇〇
特別配當金(三分)	五五二、〇〇〇
臨時配當金(一分)	一八四、〇〇〇
役員賞與金及交際費	二三〇、〇〇〇
計	三、一七四、〇〇〇

社内保留	四割七分
社外分配	五割三分

(三) 臺北製糖合併ノ内容

本社ト臺北製糖トノ合併契約ハ五月八日ヲ以テ締結サレ九月一日ヲ以テ其ノ契約ヲ履行シタリ、其ノ條件ハ臺北製糖株ノ現在拂込三十七圓五拾錢ニ更ニ十圓五十錢ヲ拂込マシメ一株四十八圓ノ拂込トシテ、之レヲ臺灣製糖ノ二十二圓拂込新株四萬六千株ト交換シタルニテ、此ハ恰モ臺北製糖ヲ百三萬五千圓ニテ買収シタルト等シク、要スルニ臺北ノ拂込資本金二百八十八萬圓ヲ約三分ノ一ニ切り詰メテ併合シタル道理ナリ、抑モ此ノ臺北製糖ナルモノハ明治四十三年八月ノ創立ニシテ、創立以來兎角業況振ハス唯四十五年及ヒ大正二年ノ決算期ニ於テ八分ノ配當ヲ爲シタルノミ、他ハ悉ク無配當ニテ昨大正四年度ニハ四萬圓ノ缺損ヲ繰越シタル程ナルカ、若シモ同社カ社運ノ挽回ヲ期待セント欲セハ先ツ鐵道ヲ敷設スルカ、然ラサレハ工場ヲ官設鐵道附近ヘ移轉スルカノ二途アルノミ、而モ之ヲ爲スニハ巨額ノ資本ヲ必要トシ、同社ノ現狀到底之レヲ能クスルヲ得サルヲ以テ同社ノ處分問題ハ夙ニ同業者間ノ話題ニ上リ居タルカ、臺灣製糖ハ特ニ同社ニ著目シツツアリ今回其ノ併合ヲ斷行スルニ至リシナリ、臺灣製糖ノ如キ健實ヲ主トスル會社カ基礎薄弱ナル臺北ヲ買収シタルハ聊カ異トス可キモ、要ハ苗圃トシテ之レヲ利用センカ爲メニシテ當社ハ蔗苗ノ必要ヨリ曩ニ埔里社製糖ヲ買収シタルモ、而モ同所ハ蔗苗ノ養成地トシテ絶好ノ區域ナルニ拘ラヌ輸送力ニ制限アリテ意ノ如クナラス、此點ヨリ觀察スレハ臺北ハ相當ノ價值ヲ有シ且ツ病害蟲ノ皆無ナルカ爲メニ苗圃トシテ或ル程度迄ノ效力ヲ發

揮シ得可ク、若シモ基礎ノ確實ナル臺灣製糖ノ手ニ經營セラレルニ至ラハ七八萬俵ノ產糖ヲ期待スルニ易ク、買收額モ可ナリ切り詰メラレシ事ナレハ或ル程度マテノ成績ハ擧ケ得ハシト信セラル。

(四) 今期ノ豫想ト株價

今期ニ於ケル當社ノ植付甲數ハ、二萬七千甲ニシテ、其產糖豫想額ハ一百三十萬俵ナリトノコトナルカ多少ノ被害ヲ見積リ百二十五萬俵ハ確實ナルヘシ。

偕同社ノ生産費ハ如何、之レヲ前期ノ夫レニ徵スルニ甘蔗代ト苧取費トニテ三圓乃至三圓三十錢、運搬費積込費雜費等四五十錢、營業費製造費ニテ二圓五十錢、即チ合計六圓ヲ要シタルモノノ如クナレハ假リニ分蜜糖相場ヲ十七圓五十錢トシ、内生産費ノ六圓ト消費稅ノ五圓トヲ引去レハ一擔ノ利益ハ六圓五十錢ニシテ、其ノ豫想額ハ左ノ如クナラン乎。

	一擔ノ利益	產糖	高利	益金
内地消費	六五〇 ^円	七五〇、〇〇〇	四、八七五、〇〇〇 ^円	
海外輸出	四、〇〇	三七五、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	
第一種糖	四、〇〇	一二五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	
合計	平均	五、五〇	一、二五〇、〇〇〇	六、八七五、〇〇〇

即チ其ノ利益金ハ六百八十七萬五千圓ニシテ、拂込資本金一千九百四十三萬五千圓ニ對シ三割五分強

ニ當リ前年度ニ比スレハ約八十五萬圓ヲ増加シ稍良好ナルモ若シ著ルシキ風水害等アルニ於テハ幾分ノ減少ヲ免レス、何レニシテモ同社來年度ノ配當ハ今期ト同一ト見テ過チナカラシ。

又同株ハ五十圓拂込ノモノ時價百〇四五圓ニシテ、之レヲ配當率一割六分ニ對照スレハ其ノ利廻リハ八朱ニ近ク殊ニ財産状態ノ健全ニシテ營業方針ノ確實ナル同株ノ如キハ如何ニモ格安ニシテ之ヲ同一配當ノ紡績株、富士紡ノ百四十圓ニ比較シテ果シテ如何ノ感カアル、況ンヤ同社ハ明治四十年以來其配當ヲ一割以下ニ下シタルコトナク放資物トシテ安全ナル部類ニ屬スルヲ以テ少ナクモ六朱五厘ノ利廻リ即チ百二十圓位迄ハ買ヒ進ミ來ルノ時機アルヘシト信ス、又同社ノ株主ハ宮内省ヲ始メトシテ財界ノ大立物ヲ網羅セルヲ以テ、同株ノ放資ハ極メテ安全ニシテ有利ナルヲ信シテ疑ハサルナリ。

其四 優良ナル東洋製糖株

(一) 製糖會社トシテノ東洋ノ地位

東洋製糖ハ我カ製糖會社中ノ優良ナルモノ也、其ノ社礎ノ鞏固ニシテ收益ノ多キ、他ニ多ク其ノ類ヲ見サル所ナリ、今試ミニ本年度ノ利益金ヲ基礎トシテ同社ト其他ノ各社トノ利益割合ヲ比較スルニ實ニ左ノ如シ。

社名 拂込資本金 本年度利益金 同上對資本割合

東洋	五、九〇〇、〇〇〇 ^円	三、三八二、〇〇〇 ^円	五割七分
大日本	一二、〇〇〇、〇〇〇	一、九一〇、〇〇〇	三割二分
鹽水	七、八七五、〇〇〇	二、九二二、〇〇〇	三割七分
臺灣	一八、四〇〇、〇〇〇	六、〇二〇、〇〇〇	三割三分
新高	三、五〇〇、〇〇〇	一、八〇三、〇〇〇	五割二分
帝國	三、〇〇〇、〇〇〇	一、四九六、〇〇〇	五割〇分
明治	八、九二五、〇〇〇	二、一六七、〇〇〇	四割八分
臺南	一、三五〇、〇〇〇	一九九、〇〇〇	一割四分

即チ東洋ノ對資本金割合ハ五割七分ニシテ他ノ何レノ會社ヨリ優良ナルヲ認ムルヲ得可シ、同社カ斯ノ如ク優良ナル成績ヲ收メ得タル所以ノモノハ、主トシテ同社カ地ノ利ヲ得タルニ據ル可シトスルモ、一ニハ當事者ノ經營其ノ宜シキヲ得タルカ爲メナラサル可ラス。

(二) 同社ノ蔗園ト製糖能力

元來、臺灣ノ糖業會社ハ總督府ヨリ許可サレタル採取區域ニ於テノミ原料ヲ採取シ得ルニテ、各社ニハ各々會社所屬ノ採取區域アリテ他ノ領域ヲ侵スヲ得ス、而シテ當初總督府カ各社ノ採取區域ヲ定メタル標準ハ甘蔗壓搾能力一噸ニ對シテ可耕地十五甲步ヲ以テシタルニテ、即チ總督府ハ一甲步ノ收穫

率ヲ四萬斤トシ、能力一噸ノ所要原料ヲ二十萬斤トシ一噸五甲歩、三年一作トシテ十五甲歩ト定メタルモノナレハ、從ツテ各社ハ何レモ一噸十五甲歩以上ノ可耕地ヲ所有シ居ル筈ナレトモ、此ハ唯表面ノ事ニシテ其ノ實ハ總督府カ土地ノ調査ヲ過テルモアリ、又ハ風水害ノ影響ヲ受ケテ土地ノ狀況ノ甚シク變化シタルモアリテ、ヨシ其ノ面積ハ廣クトモ蔗作ノ適地ヲ多ク所有セサル會社モアレト、東洋ハ各工場共大體ニ於テ充分ノ適地ヲ所有シ居リ、他社ニ比シテ敢テ遜色ナキノ狀況ニ在ル也、試ミニ之レヲ各工場別ニシテ示セハ左ノ如シ。

工場名	總面積	蔗作適地	壓搾能力	一噸當適地
南靖庄工場	二〇、四二四 ^甲	一九、四〇三 ^甲	一、〇〇〇 ^噸	一九、四 ^甲
烏樹林工場	一一、〇三〇	九、九九六	七五〇	一三、三
北港工場	一一、一一五	一二、九四九	一、〇〇〇	一二、九
斗六工場	一〇、六五一	八、三九四	五〇〇	一六、七
月眉工場	七、三二五	四、五三八	二〇〇	二二、六
計	六一、五四五	五五、二八〇	三、四五〇	一六、〇

即チ同社ノ甘蔗採取區域ハ總面積六萬一千五百四十五甲ニシテ、其ノ內蔗作適地ハ五萬五千二百八十甲歩ナレハ九割迄カ適地タル割合ナルカ故ニ、此ノ適地ヲ適地トシテ完全ニ效力ヲ擧ケシムルニ於テ

ハ先ツ以テ申分ナキ狀況ニ在ルナリ。

(三) 植付甲數ノ激増

以上ノ如ク其ノ蔗園ニ於テ有利ナル地位ニアル同社カ、此ノ有利ナル蔗園ヲ開拓ス可ク如何ナル努力ヲ致シタルカハ興味アル研究ナルカ、之レヲ證明スルモノハ左ノ植付甲數增加比較表ナリ。

工場	大正三年度	大正四年度	大正五年度	二箇年間ノ増加
南靖	三、一三七 ^甲	五、一〇二 ^甲	五、〇九八 ^甲	一、九六一 ^甲
烏樹林	一、二六三	二、二八八	二、六三二	一、三五九
斗六	二、五九一	三、四二二	二、七九六	二〇五
北港	二、七四〇	三、四三二	三、一〇七	三六七
月眉	七〇七	八一〇	一、三五〇	六四三
計	一〇、四三八	一五、〇五五	一四、九七三	四、五三五

右表ニ依ルニ大正三年ニ於テ一萬〇四百三十八甲ナリシ植付甲數ハ、四年度ニ至ツテ一萬五千〇五十甲ニ増加シ、翌五年即チ本年度ニハ稍々減少ヲ見タルモ尙其ノ植付甲數ハ一萬四千九百七十五甲ニシテ、之レヲ大正三年度ニ比較スル時ハ約四割四分ノ増加ナリ、尤モ此ノ程度ノ増加率ヲ示シタルモノハ他ニモ二三其ノ例ヲ見タルモ、斯ノ如キ増加率ヲ示シタルハ當社當事者ノ努力ノ甚タ行届ケルヲ認

ムルニ足ル可シ、

三八

(四) 併合シタル赤糖會社ノ實質

同社ハ今回彼ノ臺灣赤糖會社ヲ買收シタルカ其ノ合併條件ハ左ノ如シ。

一、東洋製糖ハ資本金七十五萬圓並ニ株式一萬五千株ヲ増加シ資本金額ヲ一千七百七十五萬圓ニ株式總數ヲ二十三萬五千株トスルコト、

一、東洋製糖ハ臺灣赤糖ノ株式額面五十圓、拂込金十二圓五十錢ノ四株ニ對シ、新株式額面五十圓拂込金二十七圓五十錢ノ一株ヲ交付シ大正五年七月一日ヨリ大正六年六月三十日ニ至ル期間ノ利益金ハ他ノ二十七圓五十錢拂込ノ株式ト同一金額ノ配當ヲ爲スコト、

但シ赤糖會社ハ大正五年六月決算期ニ於ケル利益金ヲ配當セスシテ全部之レヲ繰越金トナスコト、

以上ノ比率ハ五對九ノ割合ニシテ、赤糖ノ拂込資本金七十五萬圓ハ四十一萬圓ニ切り詰メラレタル上、東洋ニ併合サレタルモノ也、斯ノ如クニシテ本社カ赤糖ヲ併合シタル主要ノ目的ハ能力調節ノ爲メニシテ現下東洋ノ産糖能力ニハ約十萬擔ノ餘力ヲ生スル事トナリ、之レヲ換言スレハ十萬擔丈クノ原料不足ヲ生シタルニテ、此ノ不足原料ヲ赤糖會社ニ仰カントシタルカ今回赤糖ヲ買收シタル主要ノ目的タルヲ知ルヘシ、然ラハ赤糖ノ區域ハ如何ナル状態ニ在ルカト云フニ同社ノ區域ハ嘉義廳下、臺中廳

下及ヒ南投廳下ノ三箇所ニ分レ居リ、其ノ內臺中南投兩廳下ノモノハ云フニ足ラサレトモ嘉義廳下ノ夫レハ東洋製糖ノ爲メニ最モ必要ニシテ、同處ハ南靖庄工場ニ近ク、田二千六百二十五甲步、畑一千六百三十七甲步、合計四千三百二十二甲步アリ、之レニ昨年三萬圓ヲ以テ權利ヲ買收シタル賴尙文ノ區域ヲ加フル時ハ總計五千八百餘甲トナリテ、三年一作トスルモ毎年一千五百甲ヲ使用シ得可ク、且ツ此邊一帶ノ土地ハ概シテ肥沃ニシテ灌溉排水ノ便モ良ク、甘蔗ノ好適地ナルカ故ニ一甲步優ニ六萬斤ノ收穫ヲ豫想スルニ難カラズ、然レハ一千五百甲步ニシテ九千萬斤、步留一割トシテ九萬俵ノ産糖トナリ、略東洋ノ不足原料ヲ滿スニ足ル可ク、東洋カ茲ニ着目シタルハ誠ニ當然トス可キ也。

(五) 買收シタル玉置商會ノ實質

合名會社玉置商會ヲ買收シタル條件ハ、同商會ノ製糖業ニ屬スル資産全部ヲ東洋ニ引繼キ東洋ハ七圓五十錢拂込後ノ新株一萬一千株ヲ交付スルニ在リ、斯クテ赤糖會社ヲ併合シ玉置商會ヲ買收シタル後ノ同社ハ公稱資本金一千二百三十萬圓、内拂込六百六十一萬五千圓ノ大會社トナリタル譯ニテ、顧ミレハ同社カ大正三年以來斗六、北港ノ二社ヲ合併シ今亦此ノ併合アリ、僅カ一二年間ニ顯著ナル發展ヲ遂ケタルハ注目ニ價ス可シ、斯クテ東洋ノ赤糖合併ハ不足原料ノ補充ニ供シタルナルカ玉置商會ノ併合ハ之レト趣キヲ異ニシタルモノアリ、即チ玉置商會ハ沖繩群島ノ一ナル大東島ニ於テ白下糖ヲ製造シ居タルカ、其ハ今ヨリ七年前既ニ故人トナリシ玉置氏カ同島ノ産糖ニ適スルヲ發見シ、ローズバ

三九

ンブーヲ試作シテ以來年五萬樽ノ白下糖ヲ製造シツツアリシモ、玉置氏ノ死後女主人ノ管理ニ移リテヨリ經營意ノ如クナラスシテ今日ニ至リシヲ今回東洋カ買收シタリシ也、而シテ同島ニハ耕作地面積約五千町歩有リ、臺灣ニ比シテ遙カニ地味肥沃ニシテ玉置ハ六年間ヲ連作シタルニ拘ラス、尙且ツ一町歩六萬斤ノ收穫アリ、加フルニ同島ハ森林ト畑地トカ交叉シテ自然ノ防風林ヲ成シ、暴風ノ被害尠キヲ以テ集約的農法ヲ實行スルニ於テハ土地狹隘ナリト雖モ相當ノ收益ヲ擧ケ得ルノ見込アリ、東洋製糖カ同島ニ技師ヲ派遣シテ其ノ有望ナルヲ確カムルヤ、同社ハ先ツ同島ニ一千噸ノ分密糖工場ヲ建設スルノ計劃ヲ樹テ、往々ハ二十萬俵ノ產糖ヲ得可キ見込ナリト云フ、而シテ去ル七月ニ新舊株ヲ通シテ一株七圓五十錢ノ拂込ヲ徵收シタルハ即チ此ノ工場建設ノ爲メナリト云フ、尤モ今ハ工場建設ノ爲メニ四割方餘分ノ經費ヲ拂ハサル可ラサル程ニ材料ノ騰貴シ居レハ右ハ今後適當ノ時期ニ於テ實行サルナリト、斯ノ如クニシテ近キ將來ニ於テ一千噸ノ能力ヲ増加スル豫定ナレハ、同社ハ先ツ赤糖ヲ併合シテ内容ノ充實ヲ圖リ、次テ玉置ヲ買收シテ規模ノ擴大ヲ期待シタルニテ同社ノ將來ノ益々好望ナルハ言ヲ俟タス。

(六) 今期ノ利益豫想

今期ニ於ケル同社ノ植付甲數ハ約一萬五千甲ニ上リ、之レニ今回買收シタル赤糖會社及ヒ玉置會社ノ植付面積ヲ加算スル時ハ約一萬八千甲ニ達ス可ク、今期ノ產糖額ハ甚シキ暴風雨ノ被害ナキ限り九十

萬俵ニ達スルニ到ル可シ、而シテ一方糖價ハ如何ト云フニ歐洲大戰ノ繼續中ハ勿論、ヨシ平和ノ克復シタリトスルモ歐洲ノ產額ハ俄カニ増加ス可シモ非ス、此處一兩年ハ糖價下落ノ憂ナカル可キニ依リ、假リニ分密糖相場ヲ十七圓五十錢トシ、之レヨリ消費稅五圓ヲ引去レハ手取十二圓五十錢ニシテ、生産費ヲ六圓トスレハ一擔ノ利益ハ六圓五十錢トナル、又海外輸出ヲ十圓トシテモ一擔ノ利益ハ四圓ニシテ之レ亦莫大ノ利益ナリ、今東洋製糖ノ產糖豫想高九十萬俵ヲ聯合決議ノ比率ニ依リテ内地消費、海外輸出、第一種糖作物ノ三種ニ區別シ其ノ利益程度ヲ豫想スレハ實ニ左ノ如シ。

	一擔ノ利益	產糖	高	利益	金
内地消費	六、五〇 <small>圓</small>	五四〇、〇〇〇 <small>圓</small>	三、五一〇、〇〇〇 <small>圓</small>		
海外輸出	四、〇〇	二七〇、〇〇〇	一、〇八〇、〇〇〇		
第一種糖	四、〇〇	九〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇		
合 計 平均	五、五〇	九〇〇、〇〇〇	四、九五〇、〇〇〇		

即チ其ノ利益金ハ四百九十五萬圓ニシテ、之レヨリ借入金ノ利息約二十萬圓ヲ引去ルモ差引純益金ハ四百七十五萬圓トナリ、拂込資本金六百六十一萬五千圓ニ對シテ七割一分ニ該當ス、乃チ今期ハ二割五分配當ハ易々タルノミ、或ハ更ニヨリ以上ノ増配モ爲サント欲セハ爲シ能フノ好況ニ在ルヲ知ル可シ。

(七) 同社ノ株式前途觀

同社ノ株式ハ四十二圓半拂込ノモノ時價百十圓トシテ、之レヲ配當率二割ニ對照スレハ其ノ利廻リハ七朱八厘ニシテ更ニ今期ノ成績一層優良ニ配當増加ヲ見越スニ於テ益々其割安ナルヲ感セスンハアラス、人或ハ製糖株ノ放資ヲ以テ戰後ヲ懸念シ現在配當率ヲ標準トスルハ頗ル危険ナリト爲スモノアリト雖トモ、同社ノ如キハ基礎已ニ鞏固ニシテ今後著ルシキ天災ニ遭遇セサル限リハ能ク二割ノ配當ヲ維持シ得ヘキ見込立チタリト謂ヘハ、鈴木商店系統ノ經營ニ屬シ同業各社中新進ノ氣鋭ヲ以テ益々斯界ニ飛躍セントスル同會社ノ株式ハ其前途益々好望ニシテ尙大ニ買ノ餘地アリト信ス。

其五 異彩ヲ放テル新高製糖株

(一) 傑出セル資産狀態

本社ハ明治四十二年十月ノ創立ニシテ彼ノ帝國製糖ト共ニ所謂中部ニ位スル新進ノ會社ナリ、而シテ其資本金ノ同一ニシテ營業ノ粗糖本位ナル點ニ於テ、又其ノ蔗園ノ水田地方ニ多クシテ米價ノ影響ヲ受クルコトノ大ナル點ニ於テ兩社ノ酷似セル所尠カラス、其成績ノ如キモ略相似タルモノ有リテ兩三年前マテハ風水害ノ影響慘憺タルモノ有リシカ、前々期來俄カニ活況ヲ呈シ殊ニ我カ新高ニ至リテハ其ノ營業狀態ノ他社ニ比シテ一頭地ヲ拔ケルモノアリ、即チ前期ノ成績ハ利益金トシテ計上サレタル

所一百八十萬三千圓トアレト、此ノ利益金ヲ算出スル以前ニ於テ既ニ改良糖廠買收金六萬圓、不動産減價消却金三十一萬圓ヲ支出シ居レハ、事實ニ於ケル本年度ノ利益金ハ二百十七萬四千圓トナル勘定ニシテ實ニ拂込資本金ノ六割二分ニ相當シ臺灣糖業會社中隨一ノ良好ナル成績ヲ收メタル程ナレハ、世人ハ等シク二割以上ノ配當ヲ期待セシニ實際ハ特別配當ヲ加ヘテ一割七分ノ配當ヲ爲シタルニ過キス、以テ本社カ如何ニ堅實ヲ主トセルカヲ察スルニ足ル可シ、今試ミニ本年度ノ利益處分ヲ社内保留ト社外分配トニ區別スルニ左ノ如シ。

本年度利益金

二、一七三、四九六

内

法定積立金	九二、〇〇〇
機械建築積立金	四五八、〇〇〇
減價補填積立金	六〇、〇〇〇
改良糖廠買收費償却金	三一〇、〇〇〇
不動産減價償却金	四〇〇、〇〇〇
社内保留	一〇〇、〇〇〇
配當準備積立金	一〇〇、〇〇〇
災害準備積立金	一〇、〇〇〇
使用人恩給基金	一〇、〇〇〇

繰越金増加

計

四三、一二一
一、四七三、一二一

四四

株主配當金(一割)

三五〇、〇〇〇

社外分配

同特別配當金(七分)

二四五、〇〇〇

役員賞與及交際費

九五、〇〇〇

計

六九〇、〇〇〇

社内保留

六割八分

社外分配

三割二分

即チ本年度利益金ノ内社外ニ分配シタルハ三割二分ニ過キスシテ六割八分ヲ社内ニ保留シタルハ同社
從來ノ堅實主義ヲ表現シタルモノニシテ大ニ誇リトスルニ足ラン、元來當社ハ固定資本ノ割安ナル點
ニ於テ同業社中第一位ニ在リ、此ノ程竣成セル能力八十噸ノ大阪精製糖工場ノ如キ、資金約八九十萬
圓ヲ要シタランモ極メテ經濟的ニ工事ヲ進メ得タルモノ、如ク、資金ハ全部剩餘金ヲ以テ之レニ充當
シタル模様ナレハ、今後同工場ノ活躍ト共ニ資産ノ内容ハ益々充實スルニ至ラン。

(二) 原料政策ノ失敗ト其改善

同社カスノ如ク資産状態ノ傑出セルニ拘ラス從來其成績ノ甚タ振ハサリシ所以ノモノハ一ニ原料政策

ノ失敗ニ歸セサル可ラス、即チ當社最初ノ工場地タル彰化地方ハ本來米作地ナルヲ以テ、米價低落ノ
年柄ニハ收量豊富ノ利便アリト雖モ、其ノ反對ノ場合ニハ米作ノ壓迫ヲ受クルコト尠カラス、對農民
トノ關係モ亦良好ナラスシテ、旁々原料政策ハ全然失敗タルヲ免レス、其ノ後嘉義ニ設立シタル千二
百噸ノ工場ハ原料採取區域良好ナリシモ、一方ノ彰化工場ハ常ニ不成績ニシテ嘉義工場カ餘程ノ好成
績ヲ收メサレハ之レヲ補填スルニ難ク、會社ノ當事者モ此點ニ就テハ苦心スル所尠カラスシテ、往々
ハ工場ノ中心ヲ嘉義方面ニ集中スルノ方針ヲ樹テ以テ從來ノ缺點ヲ補填ス可シト云フ、但シ如上ノ改
革ニハ固ヨリ相當ノ日子ヲ要スルカ故ニ其ノ間一方ニ於テハ益々資産ノ充實ニ努メサル可ラス、斯ク
テ其ノ缺陷ヲ補フテ餘リアランニハ同社ノ前途ハ蓋シ洋々タルモノアラン。

(三) 今期ノ豫想ト株式ノ見込

今期ノ收益豫想ヲ知ラント欲セハ先ツ其ノ産糖豫想ヲ確カメサル可ラス、即チ左ニ今期ノ植付甲數及
ヒ産糖豫想ヲ示サン。

植付甲數	收穫原料	産糖高
彰化 一、八五〇	一四八、〇〇〇、〇〇〇 _斤	
嘉義 四、七一〇	二三五、〇〇〇、〇〇〇	
計 六、五六〇	三八三、〇〇〇、〇〇〇	四〇二、六七五 _磅

四五

而シテ之ヲ前期ニ比較スルニ植付甲數ニ於テハ彰化工場ニ在リテ約百五十甲ヲ増シ、嘉義工場ニ在リテハ殆ント大差ナク、收穫豫想高ハ前期ニ比シテ約八百五十萬斤ヲ増シ居レハ、ヨシ多少ノ減收ヲ見越ストシテモ本年度ト略同額ノ產糖額ヲ得可キヲ疑ハス、而シテ今日ノ株式時價ハ三十五圓拂込ノモノ七十五圓擲ミニシテ、之レヲ配當率一割七分ニ對照スレハ利廻リハ七分九厘ナリ殊ニ前期ハ其拂込資本ニ對シ五割以上ノ利益ヲ擧ケタルニ拘ハラヌ株主配當ヲ局限シテ一割七分ニ止メ利益金ノ六割以上ヲ社内ニ保留シタルヲ以テ財産状態ハ愈々健實トナリタリ今期若シ豫想ノ如キ結果ヲ示サンニハ配當増加ハ無論積立金モ亦一層激増スヘキヲ以テ同株ハ其ノ前途ニ尙多クノ伸張力ヲ有ス。

其六 見込アル帝國製糖株

(一) 南日本併合後ノ帝國製糖

本社ハ明治四十三年十月ノ創立ニ係リ、彼ノ新高製糖ト共ニ所謂中部ニ位スル所ノ新進ノ會社ニシテ、資本金ハ五百萬圓ナリシカ本年七月末日南日本製糖株式會社ヲ合併シテ、資本金七百五十萬圓、株數十五萬株ノ會社トナレリ、南日本製糖ハ明治四十五年ノ創立ニシテ以來曾テ一度モ配當セルコトナク、前期ノ決算ニハ六萬圓ノ缺損ヲ繰越シ、其ノ株式市價ノ如キモ帝國トノ合併談ノ流布サレテヨリハ額面以上ノ活躍ヲ見タリト雖モ、其ノ以前ハ三十圓拂込ノモノカ漸ク十五六圓ニ過キサリシナリ、然ル

ニ貧弱ナル此ノ南日本製糖カ三十圓拂込ノ株式時價六十圓以上ナル帝國製糖ニ七株對五株ノ割合ヲ以テ買收サレタルハ、南日本ノ爲メニハ一大成功ト謂ハサル可ラス、斯ノ如クニシテ買收サレタル南日本カ大ナル利益ヲ得タリトスレハ、之ヲ買收シタル帝國製糖ハ大ナル不利益ヲ招キタルカ當然ノヤウナレト事實ハ決シテ然ラス、今回ノ併合ハ南日本ノ成功タルト同時ニ帝國製糖ノ爲メニモ亦大ナル成功タル也。

今其ノ理由ヲ明確ニセンニ、帝國製糖ハ曩ニ暴風雨ノ慘害ヲ蒙リシト、同社ノ採取區域カ元米產地タリシカ爲メニ米價騰貴ノ打撃ヲ受ケタルトニテ、一時甚シク悲境ニ沈淪シタリシモ幸ニ同社ハ悲境ニ處スルノ道ヲ誤ラス、先ツ自作農ニ成功シテ前年來業況頓ニ革マリ意外ノ盛況ヲ呈シ現在ノ機械能力一千五十噸ヲ以テシテハ到底其ノ收穫原料ノ全部ヲ消化スルコト能ハス、勢ヒ同社ハ機械能力ヲ擴張セサル可ラサルニ至リシモ、今日臺灣ノ現狀ヲ以テシテハ他會社ヲ買收スル以外ニ機械能力ヲ増加ス可キ適當ノ方法ナク、偕コソ南日本ノ買收案ナルモノハ生レタル也、一方南日本ノ状態ハ如何ト云フニ同社ハ當初甘蔗採取區域ノ選擇ヲ誤リシカ爲メニ機械能力ニ適應スル丈ケノ原料ヲ得ル能ハス、六百六十英噸ノ機械ハ原料不足ノ爲メニ其ノ能力ヲ發揮スルコト能ハスシテ著ルシキ餘裕ヲ生シ、事業ノ根底爲メニ一大動搖ヲ來シツ、アリシニテ即チ帝國ハ原料餘リ有リテ機械能力足ラス、南日本ハ原料足ラスシテ機械能力餘リアリ、此二社ノ長短相補ヒシモノカ即チ今回ノ併合ニシテ南日本買收ノ結

果帝國カ利益率ノ稀薄ヲ來スノ憂ヒ毫モナク、却ツテ同社ノ前途ニ希望ノ光明ヲ認メ來リシヲ想ハサル可カラス。

(二) 同社資産状態ノ解剖

同社ノ固定資本カ比較的割高ナルハ一ノ缺點トシテ指摘サレツ、アリ、其ノ一噸當リノ三千圓ナルハ普通標準ノ約五割高ニシテ、同社ノ固定資本カ斯ク割高ナルハ一ニハ工場鐵道關係ノ百九十萬圓ニ高マレルアリ、更ニ自營耕作、耕墾契約領地貸金等ノ土地及ヒ農業方面ニ放資スルコト百餘萬圓ノ多キニ達セルカ爲メナル可シ、更ニ今回買収シタル南日本ニ交附ス可キ新株ハ三十圓拂込五萬株ニテ百五十萬圓ト、外ニ八十萬圓ノ借入金ヲ繼承セル爲メ、買収ニ要シタル資本ノ總額ハ二百三十萬圓ニシテ之ニ對スル機械能力ハ六百六十噸ナレハ之レ亦一噸當リ三千五百圓ニシテ聊カ高價ニ過クルノ觀アリ、尤モ此ノ機械ハ世ニ所謂算盤機械ト稱セラル、モノニシテ非常ニ伸張力ニ富ミ九百噸迄ノ能力ヲ發揮シ得ルモノナレハ、他ノ機械ト同一ニ比較スルハ酷ナルモ三百五十圓ハ決シテ割安トハ目ス可ラス、而シテ本社カ割高ノ資本ヲ擁シツ、アルハ疑ヒモナク一ノ弱點タルニ相違ナシト雖モ幸ヒニシテ前々期來能力一杯ノ生産ヲナシテ尙足ラサル狀況ニアリ、且ツ其ノ製品ノ割高販賣ニ成功シ、其實績ハ資本勘定ニ照スモ能力振合ニ徴スルモ各社ニ劣ラサルノ好成绩ヲ收メ得タルハ一ニ當事業ノ手腕ノ致ス所トシテ誇ルニ足ラン乎。

試ミニ其ノ積立金及ヒ後期繰越金ヲ見ルニ、

法定積立金	一六三、〇〇〇
別途積立金	三〇〇、〇〇〇
恩給扶助基金	三三、七〇〇
後期繰越金	二四一、四〇〇
合 計	七三八、一〇〇

ニシテ、之ヲ資本金拂込額三百萬圓ニ對照スレハ漸ク二割五分ニ該當スルニ過キス、而モ是等ノ積立金及ヒ後期繰越ハ前々期ヨリ著ルシク潤澤ノ度ヲ加ヘ來リ、其ノ以前ハ殆ント見ルニ足ルモノナカリシニ、近々二回ノ決算ニテ斯ク長足ノ進歩ヲ示シタルヲ想ヘハ、將來南日本トノ合併ニ依リ機械能力ト蔗園トノ調節宜シキヲ得テ、更ニヨリ以上ノ好成绩ヲ收メ得タランニハ一層積立金ヲ増加シテ、漸次資産状態ノ健實ヲ致ス可キハ今ヨリ之レヲ期待スルニ難カラサルナリ。

(三) 今期ノ豫想ト株式前途觀

同社ハ今回買収シタル南日本ノ二工場中新竹工場三百十噸ヲ自己従前ノ工場地ニ移シ、南日本ノ區域ニハ中港工場三百五噸ノミヲ殘ス計畫ナリト云フ、蓋シ斯ノ如クスル時ハ舊南日本ノ餘リアル機械力ヲ移シテ原料豊富ニシテ能力不足ナル帝國ノ缺點ヲ補フノ利益アルヘシ而シテ今期ノ成績ヲ豫想スル

ニ其植付面積ハ七千六百甲ニ達シ産糖額四十萬俵ノ見込ナリト謂ヘハ前期ニ比シ一層ノ發展ナリト云フ可シ、故ニ本年若シ無事ニ天災期ヲ經過シタランニハ非常ニ好成績ヲ呈スルヤモ知ル可ラス、更ニ株式ノ見込如何ト云フニ同株ハ三十圓拂込ノモノ時價六十三四圓トシテ、配當率一割八分ニ對照スレハ利廻リハ八分六厘ニ相當シ最モ割安ナレハ尙十分ニ買餘地アリ、且ツ南日本併合ノ結果同社事業ノ前途ニハ多大ノ興味ノ伴ヒ來リシコトナレハ、同株ハ製糖株中最モ興味アル思惑株トナリシ次第ナリ。

其七 確實ナル明治製糖株

(一) 確實ナル其資産状態

當社ハ公稱資本金一千二百萬圓、拂込資本金八百九十二萬圓ニシテ、甘蔗壓搾能力三千五百五十噸、骨炭精糖能力二百噸ヲ算シ、尙目下九州戸畑ニ於テ精糖能力百噸ノ新工場建設中ニアリ、本邦製糖會社中臺灣製糖ニ次テノ大會社トシテ斯界ニ重キヲナシ、其ノ經營振ノ堅實ナル點ニ於テハ常ニ第一流ニ指ヲ屈セラレ、資産ノ内容頗ル充實シテ消却積立金ノ如キモ些ノ遺憾ナキヲ期シ、固定資本約八百四十餘萬圓ハ拂込資本金八百九十二萬圓ヲ以テ充當セラレ、各勘定科目ノ妥當確實ナルノミナラス、機械建物ノ減價消却金ノ如キハ原價ニ對シ年六分ノ割合ヲ以テ控除サン、其ノ額ハ既ニ現在マテニ於テ二百三十萬圓ノ多額ヲ産シ、是レニ法定積立金、配當準備積立金、使用人恩給扶助基金、後期繰越

金等ヲ加算スル時ハ合計五百〇四萬餘圓ニ上リ、方ニ拂込資本金ノ五割五分ニ相當シ、其ノ資産状態ノ優勢ナル誠ニ天下ニ誇ルニ足ルモノアリ、同社カ極メテ地味ナル會社トシテ知ラルルニ拘ラス前期ニ於テ一割五分ノ配當率ヲ決定シ、製糖會社増配ノ先驅ヲナシタルハ同社ノ業況ノ益々好況ニシテ利益金ノ潤澤ナリシカ爲メノミ、今試ミニ同社ノ資産状態ヲ數字ヲ以テ示セハ左ノ如シ。

	前々期迄累計	前	期	合	計
減價消却金	一、八〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇		
法定積立金	四二〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	五一〇、〇〇〇		
配當準備積立金	一、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇		
恩給扶助基金	一八〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇		
後期繰越金	一一〇、三四三	二一八、六八二	三三九、〇二五		
合	三、五二〇、三四三	一、五二八、六八二	五、〇四九、〇二五		

(二) 今期ノ成績ト配當豫想

同社今期ノ植付甲數ハ前年通り一萬五千五百甲歩ニシテ、其産糖豫想ハ八十萬俵ナリ、故ニ今後幾分ノ被害アリトスルモ尙且ツ七十萬俵ノ産糖ヲ期待シ得可ク、此ノ産糖高ヲ聯合協定ノ比率ニ依リ、内地消費、海外輸出、第一種糖ノ三種ニ區別シ、其ノ賣價ヲ内地消費十七圓五十錢、海外輸出十圓、一

種糖十二圓ト假定シ、其ノ生産費ヲ六圓（但シ一種糖一圓安）トシテ利益金ヲ産出スレハ左表ノ如キ成績ヲ得ル勘定ナリ。

	一擔利益	數量	利益積算
内地消費	六、五〇	四二〇、〇〇〇	二、七三〇、〇〇〇
海外輸出	四、〇〇	二一〇、〇〇〇	八四〇、〇〇〇
第一種糖	四、〇〇	七〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
計	平均 五、五〇	七〇〇、〇〇〇	三、八五〇、〇〇〇

即チ右表ノ如ク三百八十五萬圓ヲ本年度産糖ノ利益金トシ、之ニ精製糖益金四十萬圓、酒精益金五萬圓ヲ加フレハ合計四百三十萬圓トナリ、更ニ之レヲ二分シタル二百十五萬圓カ次期ノ利益金ニシテ、其ノ對拂込資本割合ハ實ニ四割五分ニ相當ス、而シテ此等利益金ノ算出ハ手持品ノ評價如何ニ依リテモ著ルシキ相違ヲ生シ、又販賣關係ト決算方法トニ依リテモ相違ヲ生スルコトアルモ、主トシテ製品販賣ノ價格ニ依リテ其ノ成績ヲ左右サル、ハ言フ俟タス、而モ前記ノ利益豫想ハ前期ニ比シテモ著シク内輪ニ見積ラレ居リテ、尙且ツ如上ノ利益ヲ計上シ得タルモノナレハ、産糖上ニモ營業上ニモヨリ以上ノ好成绩ヲ收メ得可シト豫想サル、當社ノ今期成績ハ蓋シ想像スルニ難カラス、其ノ配當率ノ如キハ如何ニ増配ヲ好マサル同社ト雖モ依然トシテ普通年一割二分、特別三分ヲ維持シ行クハ勿論、豫期

以上ノ好成绩ヲ收メ得ルニ於テハヨリ以上ノ増配ヲモ亦爲サル可ラサルニ至ラン。

(三) 同株ノ前途觀

五十圓拂込ノ同株市價ハ前記増配ノ發表サル、前ハ九十二三圓ナリシカ、増配發表後直チニ騰貴シテ九十八九圓トナリ、更ニ株式ノ氣配ノ一般ニ昂進シタルニ連レテ百〇三圓ニ上騰シタリ、之レヲ其ノ配當率一割五分ニ對照スル時ハ其ノ利廻リハ七分三厘強ニシテ製糖株ノ放資トシテハ既ニ相當利廻リ迄買ヒ上ゲラレタルニ似タリト雖トモ同社ハ他ノ同業會社ト異ナリ其配當率ヲ局限シテ専ラ内容ノ充實ヲ計リタルヲ以テ強チ前期配當率ノミヲ以テ放資ノ標準ト爲ス可カラス、其基礎ノ確實ニシテ積立金ノ豊富ナルト、來期ノ成績優良ナル等ヨリ打算シテ六朱五厘ノ利廻リ即チ百十五圓位迄買進ミテ聊カモ不當ナリト信スル能ハス要スルニ同株ハ確實ナル投資ノ目的物トシテ優秀ナルモノ、一タラン乎。

其八 新進ノ臺南製糖株

(一) 三製糖所併合後ノ狀況

當社ハ大正二年ノ創立ニシテ、以來漸ク三年ノ日子ヲ閱シタルニ過キス、百事草創ノ時代ヲ經過シテ其ノ事業將サニ整備ノ緒ニ就カントスル狀況ニ在リ、成績ノ未タ大イニ見ルニ足ルモノナキハ遺憾ナルモ、今後年ト共ニ發展ヲ期待シ得可ク、殊ニ今回安泰糖廠及ヒ宜蘭製糖所ヲ併合シ、後大埔製糖所ヲ

買收シタルニ依リテ、當社ハ新タニ二萬六千八百甲ノ原料採收區域ヲ獲得シ、六百六十噸ノ製糖能力ヲ加フルコト、ナレリ、即チ從來ノ採收區域耕地面積ハ五千五百甲ニ過キサリシカ、安泰糖廠區域ノ三千七百甲、宜蘭製糖所ノ二萬二千六百甲、竝ニ後大埔ノ五百甲ヲ加フレハ區域總面積ハ三萬二千三百甲ニ及ヒ從來ノ區域ノ約六倍ニ擴大スル事トナル、又製糖許可能力ハ噍吧啤工場ノ分蜜糖四百二十噸ニ、更ニ安泰糖廠ノ赤糖二百六十噸、宜蘭ノ分蜜糖四百噸ヲ加ヘ總計一千八十噸ヲ算シ、而シテ今期ノ植付ハ安泰區域五百三十甲、宜蘭一千四百五十甲、後大埔三十三甲ニシテ、之ニ噍吧啤ノ一千五百二甲ヲ加フレハ蔗園總面積ハ三千五百十五甲ニ上ルコトナリ、而シテ同社ハ今回新タニ獲タル所ノ區域ニ對シテ今後極力蔗園ヲ擴張シ產糖ノ増加ヲ計ル可キ方針ナリト云ヘハ、社業ノ前途ハ一段ノ進境ヲ見ル可キヲ疑ハス。

(二) 兩製糖會社併合ノ内容

當社カ今回安泰糖廠合名會社及ヒ合名會社宜蘭製糖所ヲ併合シタルコトハ前記ノ如クナルカ、今其ノ併合條件ヲ見ルニ左ノ如シ。

(イ) 安泰糖廠併合條件

一、臺南製糖ハ大正五年七月一日ヲ以テ安泰糖廠ヲ合併シテ其ノ權利義務ヲ繼承シ安泰糖廠ハ解散スルコト

一、臺南製糖ハ定款ヲ變更シテ資本金六十萬圓株式一萬二千株ヲ増加シ質本金ヲ二百六十萬圓株式總數ヲ七萬二千株トスルコト。

一、臺南製糖ハ額面五十圓拂込金二十二圓五十錢株式一萬二千株ヲ發行シ此ノ新株式ト現金三萬圓ヲ併セテ安泰糖廠ニ交付スルコト

(ロ) 宜蘭製糖併合條件

一、兩社ハ大正五年九月一日ヲ以テ合併シ臺南製糖ハ宜蘭製糖ノ權利義務一切ヲ繼承シテ宜蘭製糖ハ解散スルコト

一、臺南製糖ハ新ニ額面五十圓拂込金十二圓五十錢ノ株式二萬八千株ヲ發行シ此ノ新株式ト現金三十萬圓トヲ宜蘭製糖ニ交付スルコト

一、臺南製糖ハ資本金百四十萬圓株式二萬八千株ヲ増加シ資本金ヲ五百萬圓株式總數ヲ十萬株トスルコト

以上ノ如ク當社ハ二社ヲ合併シテ資本金三百萬圓ヲ五百萬圓ニ増資シ、株式總數ハ六萬株ナリシヲ十萬株ニ増シタル次第ナリ。

(三) 資産狀態ト株式

今同社ノ財産狀態ヲ見ルニ

法定積立金	二〇、六〇〇圓
固定資本償却積立金	三九、〇〇〇圓
職員職工恩給基金	四、六〇〇圓
後期繰越金	三四、四〇〇圓
合計	九八、六〇〇圓

ニシテ、會社草創ノ時代ナレハ積立金ノ如キハ殆ント云フニ足ラサルモ散テ不思議トスルニ足ラス、唯其ノ興味ハ一ニ懸ツテ未來ニ在リ、株式市價ハ二十二圓五十錢ノモノ二十四五圓トシテ、其ノ配當率一割ニ對照スレハ利廻リハ九分ニ相當シ製糖株中隨一ノ好利廻リニ在リ、右ハ當社カ新進ノ會社ニシテ未タ一般放資家ノ注意ヲ惹クニ足ラサルカ爲メナル可キモ今期ノ産糖額ハ五萬俵以上ニ達シ優ニ一割ノ配當ヲ爲スニ足ルヘク又安泰糖廊及ヒ宜蘭製糖合併後ノ同社ハ次第ニ發展シ、事業ノ進展ヲ見ルモ亦遠キニ非サル可ケレハ思惑的放資株トシテハ興味深キヤニ觀測セラル。

大日本製糖株式會社

貸借對照表 (大正五年四月三十日現在)

負債之部		資産之部	
株	金	大里工場買收費	四、五〇〇、〇〇〇圓 ^甲
法定積立金	五九五、〇〇〇、〇〇〇	土地	五五七、八九六、六二〇
別途積立金	二、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇	建物	二、六四四、五二八、〇三〇
社員職工恩給扶助積立金	一一九、二八〇、〇〇〇	機械	五、三六八、八三〇、六六〇
未拂配當金	八七八、七七〇	船舶	一五、〇〇〇、〇〇〇
社債	三、七三六、六〇〇、〇〇〇	鐵道	一、四〇一、九七六、一〇〇
年賦借入金	一〇六、三一八、七二〇	電話及電燈	一九、九五三、八四〇
未納稅金	三、五〇〇、四五九、四八〇	農具及家畜	二四、八二五、二五〇
未査定品稅金	二四二、三一二、一五〇	什器	七九、三六三、八三〇
保證預リ金	一、六〇四、六八五、九四〇	貸下開墾地	一二五、五二〇、四三〇
社員及職工積金	二、二三四、七七七、七三〇	名古屋製糖會社勘定	四三八、四八一、八五〇
假受金	一、一三四、八四六、三一〇	諸貸金	一、六〇〇、〇〇〇
支拂手形	一、〇四五、八〇九、六八〇	未納稅擔保有價證券	一、三四〇、三九二、一〇〇
買掛金	九二五、六七四、三七〇	同預金	一、四三六、五〇〇、〇〇〇
未拂金	二、二四七、五九一、〇〇〇	同託金	二〇〇、〇〇〇

前期繰越金
当期純益金

七二九、二九二、二四〇
一、七四九、八三六、五五〇

五八

合計

三〇、五五七、一四〇、〇四〇

關稅假納金
保證金
甘蔗栽培資本貸付金
未收金
工場用品在高
原料在高
半製品在高
製品在高
有價證券
賣掛金
受取手形金
預座預金
當座預金
金銀在高

四八八、一八八、〇八〇
一〇、一〇〇、六四〇
五八七、二六九、二九〇
六七五、八六二、二九〇
一七、二八二、六三〇
六七五、四五四、〇二〇
二、〇〇〇、八七二、四六〇
三〇二、六七七、三一〇
二、〇〇六、〇〇九、七六〇
三二五、三七二、四〇〇
二二一、五七七、〇七〇
一、三三五、五九八、六九〇
二、一五六、六一九、四八〇
一、七三五、四七〇、八三〇
六三、七一六、三八〇
三〇、五五七、一四〇、〇四〇

損益計算書

(自大正四年十一月一日起至大正五年四月三十日)

賣上代金
收入之部

一九、二五九、三九一、二八〇

支出之部

一、五五三、九六七、七〇〇

收入利息
雜收入
製品在高
半製品在高

一三二、四七三、一七〇
六三、八〇五、二四〇
二、〇〇六、〇〇九、七六〇
三〇二、六七七、三一一〇

合計

二一、七六四、三五六、七六〇

利益金處分

当期利益金
社内債利息
再差引
当期純益金
外
前期繰越益金

一九一〇、四六九、〇五〇
一六〇、六三二、五〇〇
一、七四九、八三六、五五〇
七二九、二九二、二四〇

同半製品在高
原料消費高及諸掛
消費稅金
諸稅金
利息及割引料其他
役員及社員俸給
火災保險料
修繕費
廣告料
總係費

三、一〇、四八一、四六〇
一四、四五〇、六七四、〇五〇
三、二七七、三四五、一〇〇
一、一六、五三五、六一〇
四二、〇五二、五一〇
二〇、七四八、二六〇
一四、〇九八、三〇〇
一五、八六三、七七〇
六、八二五、六二〇
四五、二九五、三三〇
一九、八五三、八八七、七一〇

五九

法定積立金
別途積立金
大里買收減價償却
工場固定財產償却
社員職工恩給積立金
役員及社員賞與金
株主配當金(年一割)

九〇、〇〇〇、〇〇〇
二五〇、〇〇〇、〇〇〇
二五〇、〇〇〇、〇〇〇
二五〇、〇〇〇、〇〇〇
二五〇、〇〇〇、〇〇〇
一三五〇、〇〇〇、〇〇〇
六〇〇、〇〇〇、〇〇〇

合計 二四七九、二八七九〇

同特別配當金(年二分) 一、二〇、〇〇〇〇〇
後期繰越金 七五九、二八七九〇
合計 二、四七九、二八七九〇

六〇

重役氏名
取締役社長 藤山雷太
常務取締役 伊澤良立
取締役 星野錫
監査役 指田義雄
常務取締役 高山長幸
取締役 中村清藏
取締役 濱本義顯
監査役 大海原尙義

大株主氏名

四、六七四 藤山雷太 三、四三六 瀬戸口 又 三、三〇〇 仁田貞夫
三、〇〇〇 岩崎吉松 二、七八五 伊澤良立 二、六八〇 神田錫藏
二、五〇〇 高山長幸 二、一〇〇 土橋平治 二、〇五八 野村徳七
二、〇〇〇 濱本義顯 一、九八七 指田義雄 一、九五二 加賀豊三郎
一、八八〇 今井又次郎 一、八〇〇 星野錫 一、七六〇 荒木菊三郎
一、六〇〇 殿村梅之助 一、六〇〇 中村清藏 一、五五七 藤山愛一郎

一、四二五 大海原尙義 一、四一〇 横田庄次郎 一、三六〇 田中 竹
一、二〇〇 滿武卓一 一、一三〇 中島伊平 一、一〇 野澤政治郎
一、〇〇〇 古森龜衛 一、〇〇〇 齋藤善八 一、〇〇〇 神國生命保險株式會社

鹽水港製糖拓植株式會社

貸借對照表 (大正五年六月三十日現在)

負債之部		資産之部	
株	一一、二五〇、〇〇〇〇〇	未拂込株金	三、三七五、〇〇〇〇〇
法定準備積立金	四八三、六〇〇〇〇	土地	一、九一九、七四二、五七三
別段積立金	九二〇、〇〇〇〇〇	建物	一、八六〇、一三七、一九一
固定資産償却積立金	五〇〇、〇〇〇〇〇	機械	五、二六五、四八三、五〇六
職工恩給基金	一四五、六〇九、〇〇〇	鐵道	一、六九三、七四六、二一三
職工積立金	五七、〇七九、七三一	農場及灌溉設備	一七三、二二三、三九六
積立貯蓄預金	六〇、四五五、二五九	器具及什器	一八二、〇一〇、五七八
社債	二、五〇〇、〇〇〇〇〇	農具及家畜	三、二二二、二四、八八四
支拂手形	七二六、六一、四七〇	未成工事	一、二八、四三、四、三六二
保證預金	二〇、〇五〇、〇〇〇	土地未精算	四九七、七八八、〇五一
未納税金	二、二四八、三一、三二〇	受取手形及有價證券	三四〇、五六八、八五〇

六一

未拂金	三九八八五一・九七八	契約保證金	六二一七・〇七〇
假受金	二三、四一・一五四〇	貸附金及賤耕契約	一、六六五、四二六・九〇八
貯蓄貯金	一三一、九〇五・五七六	銀行預金	六三七、二〇三、〇〇〇
未拂配當金	九三、一〇〇	製品及積送品	一、四四五、一八五、三〇四
前期繰越金	九二、八九九・九七三	得意先	一、四二六、八三三、一八〇
前期繰越金	二、九二二、四四七・九五五	貯藏品	二四七、五七四・六八三
當期利益金		供託金	一六八、七三一・七四〇
		未收金	一三七、一八九・二七六
		假拂金	一六九、九三七・五六六
		次年度甘蔗栽培	二三四、八八六・五八三
		鑛業部	一一六、一七〇・〇一二
		鑛業在	二七、六一・九二六
		金銀在高	二二〇、三一、三二六・八五二
		合計	

製製品收入	七、八九三、五三一・六九八	製造費	五、〇一七、九一八・九八〇
製製品賣益	一、二三九、五三一・〇七〇	營業費	三、一〇六、九八九・五八一
雜賣益	六八、二六四・〇一六	損損	一〇、五九六、九五四
鐵道收入	二二、一八二、六六五〇	合計	一一九、九七七・六八五
合計	二二、〇三一、三二六・八五二		

損益計算書 (自大正四年七月一日起至大正五年六月三十日)

農場收入	二、三六、九八一・四三三	農場支出	一八五、三七五・一六〇
小作料	二六、七七九・三七〇	合計	二五五、五五五・八七二
税金戻入	二、一〇六、九四八・〇〇〇		
合計	一、一七九、三八二・二二七		八、六九六、四一四・三三二

當期利益金	三、〇九七、四四七・九〇五	法定積立金	一五〇、〇〇〇・〇〇〇
內社利息	一七五、〇〇〇・〇〇〇	別段積立金	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
再差引		職工恩給基金	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
當期純益金	二、九二二、四四七・九〇五	固定資本消却金	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
外		役員賞與金	一七〇、〇〇〇・〇〇〇
前期繰越金	九二、八九九・九七三	株主配當金(年一割)	七八七、五〇〇・〇〇〇
合計	三、〇一五、三四七・八七八	同特別配當金(年七分強)	五六三、五〇〇・〇〇〇
		後期繰越金	二九五、三四七・八七八
		合計	三、〇一五、三四七・八七八

重役氏名		專務取締役	橋本貞夫
取締役社長	荒井泰治	常務取締役	橋本貞夫
常務取締役	藤崎三郎助		

取締役	安藤達二	取締役	高橋是賢
取締役	岡田祐二	取締役	佐々木幹三郎
取締役	數田輝太郎	監查役	安部幸兵衛
監查役	岩崎總十郎	監查役	原修次郎
監查役	青地玄三郎	監查役	劉神嶽

大株主氏名

一二七三〇	安藤達二	九四五〇	安部幸兵衛	五四一〇	吳錦堂
四七四〇	荒井泰治	四四七六	榎武	三八九〇	諸戶精太
三八七五	藤崎三郎助	二六四〇	犬井浩二	二六〇〇	榎哲
二六〇〇	廣海二三郎	二五六七	小池國三	二〇〇〇	鈴木周三郎
一八九〇	織田昇次郎	一八七五	安部幸之助	一八五〇	伊東義五郎
一七二〇	津田七五郎	一六三三	田中善助	一五二五	高橋是賢
一四六六	川崎榮助	一四〇〇	原富太郎	一三四五	福井三藏
一三二七	川喜田久太夫	一三三三	佐々木幹三郎	一三〇〇	川崎銀行
一二七七	角田林兵衛	一一二〇	北島亘	一一六七	村田真吉

一〇七三	青木太郎	一〇三〇	山本香	一〇二五	田中岩吉
一〇〇〇	大泉辰四	一〇〇〇	川崎貯蓄銀行	一〇〇〇	第一生命保險

臺灣製糖株式會社

貸借對照表 (大正五年六月三十日現在)

株	金	二七五〇〇〇〇〇〇	未拂込株金	九、一〇〇〇〇〇〇〇
法定積立金	金	一、〇〇〇、四五〇、〇〇〇	土地	四、八四七、九二五、三九〇
別途積立金	金	一、六〇九、〇〇〇、〇〇〇	建物	三、〇六六、八六一、四四〇
配當平均準備積立金	金	一、二七〇、〇〇〇、〇〇〇	機械	八、五〇九、四一七、四五〇
恩給及扶助基金	金	二六二、〇七七、五八〇	鐵道	二、八三二、四三五、五一〇
職工農工夫慰藉基金	金	九一、六二二、二六〇	機關車及車輛	八九三、一五四、五三〇
社員身元保證積立金	金	一一四、六九五、七九〇	簡易軌條	一九五、三九〇、八六〇
社員別途積立金	金	一八九、五六六、五二〇	什器	五九、八二二、三三〇
支拂未濟配當金	金	二、一六三、九一〇	農具	一三四、〇二三、五六〇
假受金	金	一四三、五九四、〇九〇	家畜	一一、一七七、二二〇
未納消費稅及未拂金	金	三〇五、一六三、二一〇	船舶	八九、四五三、二九〇
支拂手形	金	一一八、八九〇、〇一〇	神戸工場買收勘定	八六〇、〇〇〇、〇〇〇

預リ有價證券
前年度繰越金
當年度總益金

一六八二・二六〇
一三八三・二八七九〇
一〇九二・二一八八〇
六、〇二〇・六七三・六六〇

合計

四二、七〇一・七二七・八六〇

損益計算書

(自大正四年七月一日
至大正五年六月卅日)

收入之部

支出之部

貯蔵品
有價證券
原糖有高
原料栽培資金前貸
假拂
次年度勘定假出金
未收金
得意先勘定
未成工事勘定
神戸工場増設勘定
銀行預金
預金
三井物産
製品勘定
現金

三〇二、九八三・四一〇
八四五、六五〇・二九〇
一、九五二、四七四・六三〇
一、五三八、二八七・八四〇
五六〇、一九〇・四三〇
九三六、六三四・一三〇
七三八、五六一・五二〇
五二九、五一・二七〇
二九、九〇七・一七〇
九二五、八二四・三八〇
一、三一〇、九四二・八七〇
六、一三七・〇〇〇
一、二六〇、三二二・二八〇
一、一四三、六二六・四六〇
一、一〇一、二六〇〇
四二、七〇一・七二七・八六〇

六六

製品收入
鐵道收入
船舶收入
土地收入
有價證券收入
利息
雜勘

一九七〇・二二六・一七四〇
二〇六、二四四・三四〇
五六、八二七・四八〇
一七二、〇六六・六五〇
二一、七五五・一九〇
一一、一〇〇・四六〇
二二、三八〇・九〇八〇
二〇、一九四、〇六四・九四〇

利益

六、〇二〇・六七三・六六〇

當期總益金

六、〇二〇・六七三・六六〇

固定資産消却金

八〇〇、〇〇〇・〇〇〇

再差引

五、二二〇・六七三・六六〇

當期純益金

五、二二〇・六七三・六六〇

前期繰越金

一〇九、二二一・八八〇

製糖費販賣費及税金
原料及農事勘定
酒精製造費
鐵道費
船舶費
營業費

三、五五七、六八二・五〇〇
八、七四八、三三七・八五〇
三、一六五、五〇一・〇
三四七、七五四・四二〇
五五、二四五・四七〇
一、一五一、七一六・〇三〇
一四、一七三、三九一・二八〇

合計

一四、一七三、三九一・二八〇

決定積立金

二六五、〇〇〇・〇〇〇

別途積立金

四〇〇、〇〇〇・〇〇〇

配當平均準備積立金

六〇〇、〇〇〇・〇〇〇

役員賞與金及交際費

二、三〇〇、〇〇〇・〇〇〇

株主配當金(年一割)

二、二〇八、〇〇〇・〇〇〇

同特別配當金(年三分)

五五二、〇〇〇・〇〇〇

同臨時配當金(年一分)

一八四、〇〇〇・〇〇〇

恩給扶助基金

五〇、〇〇〇・〇〇〇

職工農夫慰藉基金

二〇〇、〇〇〇・〇〇〇

後年度繰越金

八二〇、八九五・五四〇

六七

合計 五、三二九、八九五、五四〇

合計 五、三二九、八九五、五四〇

取締役會長	藤田 四郎	専務取締役	山本 悌二郎
専務取締役	武智 直道	常務取締役	益田 太郎
取締役	岡師 民嘉	取締役	丸田 治太郎
監査役	村井 吉兵衛	監査役	賀田 金三郎
監査役	<small>ロベルト、ウオルカー アルウキン、ジュニオル</small>	相談役	益田 孝
大株主氏名			
一九八〇	内 藏 頭	二九、二八〇	三井物産會社
二〇、五四〇	村井 吉兵衛		
一、三五〇〇	藤 田 組	一〇、四七〇	不動貯金銀行
九、九五〇	林 博太郎		
九、八五〇	<small>日本勸業株式會社</small>	九、七六〇	井上勝之助
八、九〇〇	原 六郎		
八、三二〇	今 村 繁 三	七、〇〇〇	相馬 順胤
五、八〇〇	毛利 元照	五、四七〇	吉川 元光
五、二五〇	新田 忠純		
五、二〇〇	川崎 銀行	五、〇八〇	アーウキン
四、八〇六	山本 悌二郎		
四、五三六	益 田 孝	四、三〇〇	朝吹 英二
四、〇六〇	青田 綱三		

四、〇〇〇	細川 護立	三、八〇〇	益田 太郎	三、六〇〇	林 維城
三、六〇〇	志賀 直温	三、五〇〇	諸戶 精太	三、四一五	中 和
三、四一〇	津田 七五郎	三、三三〇	早川 佐七	三、二〇〇	桂 廣太郎
二、八九三	小池 國三	二、八七〇	北 島 亘	二、七五二	井上 武子
二、六〇六	中 島 伊平	二、四三〇	小塚 貞義	二、三九〇	三野村 安太郎
二、三三〇	土居 重三郎	二、三三二	早川 松之助	二、三〇〇	岩 原 謙三
二、二九四	野村 賢三郎	二、二〇〇	藤田 四郎	二、一六〇	山本 達雄
二、〇一〇	渡邊 福三郎	二、〇〇〇	武智 直道	二、〇〇〇	<small>帝國生命保險會社</small>
二、〇〇〇	後宮 信太郎	一、九八〇	阿部 泰藏	一、七五〇	山本 条太郎
一、七〇〇	大野 輝吉	一、六八〇	吉川 長三郎	一、六八〇	齋藤 捨藏
一、六〇〇	村田 直吉	一、六〇〇	近 藤 貢	一、五七〇	今井 又治郎
一、五二〇	下村 辰之助	一、五〇〇	二宮 孝順	一、五〇〇	神代 貞三

東洋製糖株式會社

貸借對照表 (大正五年六月三十日現在)

當期利益金	三三八二,八八〇.七八一	未拂込株資產之部	五,一〇〇,〇〇〇.〇〇〇
前期繰越金	三三一,〇〇三.四八一	未拂込株金	一,四四三,七八九.四三〇
合計	九,一四〇,五八九.六九〇	土地	一,五八三,七六一.五〇八
製成品收入	八,一九六,二〇五.三七〇	建物	四,二六八,〇四九.二二九
酒造收入	一一六,六五八.二七〇	機械器具	二,二〇八,八八五.〇〇五
農事收入	四六七,六六五.三二〇	鐵道	七七一,八六.四四〇
鐵道收入	一六〇,九八三.三一〇	什器	一〇二,一一三.〇〇〇
雜項收入	一九九,〇七七.四二〇	有價證券	一七,四二七.三九〇
合計	一九三,七七八.九九六.五〇二	農具及家畜	一九七,二五八.六五五
營業支出	九四二,〇〇八.二一四	貯蓄	三〇,〇〇〇.〇〇〇
製造費	三七六,四三三.六二六	賴尙文糖廠買收金	二八四,八三五.九一〇
鐵道費	二二五,九〇四.四八六	在庫製成品	一〇,三八二,四三三.六〇〇
農事費	四五一,五七一.九三五	委託製成品	四五二,九四五.七三〇
諸事費	一八〇,二四四.六六〇	銀行預金	四二五,六〇五.六二四
醫務費	一五,八〇三.一八八	受取手形金	三九二,九一七.五四〇
酒務費	九〇,三四〇.一六〇	供拂託金	二二,二〇八.〇〇〇
社債利息	八七,五〇〇.〇〇〇	假拂事	七五〇,〇九一.三八一
合計	五,七五七,七〇八.九〇九	次期農立替金	二五六,〇〇六.六八〇
未收現金	一九三,七七八.九九六.五〇二	肥料立替金	五八五,三五三.六四〇
現收現金	一一五,六二二.一三〇		
合計	一六,七〇五.六一〇		

損益計算書 (自大正四年七月一日至大正五年六月卅日)

製成品收入	八,一九六,二〇五.三七〇	營業支出	九四二,〇〇八.二一四
酒造收入	一一六,六五八.二七〇	製造費	三七六,四三三.六二六
農事收入	四六七,六六五.三二〇	鐵道費	二二五,九〇四.四八六
鐵道收入	一六〇,九八三.三一〇	農事費	四五一,五七一.九三五
雜項收入	一九九,〇七七.四二〇	諸事費	一八〇,二四四.六六〇
合計	一九三,七七八.九九六.五〇二	醫務費	一五,八〇三.一八八
營業支出	九四二,〇〇八.二一四	酒務費	九〇,三四〇.一六〇
製造費	三七六,四三三.六二六	社債利息	八七,五〇〇.〇〇〇
鐵道費	二二五,九〇四.四八六	合計	五,七五七,七〇八.九〇九
農事費	四五一,五七一.九三五		
諸事費	一八〇,二四四.六六〇		
醫務費	一五,八〇三.一八八		
酒務費	九〇,三四〇.一六〇		
社債利息	八七,五〇〇.〇〇〇		
合計	五,七五七,七〇八.九〇九		
未收現金	一九三,七七八.九九六.五〇二		
現收現金	一一五,六二二.一三〇		
合計	一六,七〇五.六一〇		

株定積立金	一,一〇〇,〇〇〇.〇〇〇
法定積立金	三二四,五〇〇.〇〇〇
別途積立金	四二〇,〇〇〇.〇〇〇
機械積立金	八八八,五〇〇.〇〇〇
建機積立金	三〇〇,〇〇〇.〇〇〇
職工恩給基金	七,二九一.七〇〇
未拂配當金	二,五〇〇,〇〇〇.〇〇〇
社債	一四六,一七六.五三〇
假受金	二六九,一五八.三一〇
未拂消費	二二,二六三.〇〇〇
未納積立金	五六,二二二.七〇〇
社員積立金	三三一,〇〇三.四八一
前期繰越金	三三八二,八八〇.七八一
當期利益金	三三一,〇〇三.四八一

未拂込株資產之部	五,一〇〇,〇〇〇.〇〇〇
未拂込株金	一,四四三,七八九.四三〇
土地	一,五八三,七六一.五〇八
建物	四,二六八,〇四九.二二九
機械器具	二,二〇八,八八五.〇〇五
鐵道	七七一,八六.四四〇
什器	一〇二,一一三.〇〇〇
有價證券	一七,四二七.三九〇
農具及家畜	一九七,二五八.六五五
貯蓄	三〇,〇〇〇.〇〇〇
賴尙文糖廠買收金	二八四,八三五.九一〇
在庫製成品	一〇,三八二,四三三.六〇〇
委託製成品	四五二,九四五.七三〇
銀行預金	四二五,六〇五.六二四
受取手形金	三九二,九一七.五四〇
供拂託金	二二,二〇八.〇〇〇
假拂事	七五〇,〇九一.三八一
次期農立替金	二五六,〇〇六.六八〇
肥料立替金	五八五,三五三.六四〇

職工恩給基金 七〇〇〇〇〇〇〇
 役員賞與金 一五〇〇〇〇〇〇〇
 株金拂込充當金 一〇二二五〇〇〇〇〇
 株主配當金(年二割) 一、一八〇〇〇〇〇〇〇〇
 後期繰越金 五一、三八四・二六二
 合計 三七一、三八四・二六二

重役氏名
 合計 三七一、三八四・二六二

取締役社長	下坂藤太郎	專務取締役	松方五郎
常務取締役	日向利兵衛	取締役	小松楠彌
取締役	岡烈	取締役	藤田謙一
取締役	石川昌次	取締役	松方正熊
取締役	田村藤四郎	監查役	渡邊甚吉
監查役	指田義雄	監查役	賀田金三郎
監查役	宮尾麟	監查役	島村足穂
大株主氏名			
一五八九五	窪田駒吉	六七五〇	藤田謙一
		四九〇〇	岡烈

四四六一	小池國三	四三一〇	竹内武	三三二〇	北島亘
三〇〇〇	福永治郎	二八四〇	日野誠義	二八〇〇	渡邊甚吉
二七五〇	下坂藤太郎	二六〇〇	本庄利三郎	二六〇〇	南安次
二五〇〇	諸戸精太	二五〇〇	増田斜	二四〇五	大塚尙
二三七七	近藤虎三郎	二二〇〇	小松楠彌	二一〇〇	加島新助
二〇一一	渡邊榮吉	二〇〇〇	石田龜一	二〇〇〇	松田茂太郎
一九七五	有光竹之助	一九七〇	長谷部石枝	一九三三	青木豊松
一九二〇	大塚茂二郎	一八八〇	前田二平	一八四〇	三木醇三
一七五〇	野村徳七	一七四〇	加島安治郎	一六一〇	日向利兵衛
一六〇〇	織田昇次郎	一五五〇	石川昌治	一五五〇	大矢幸八
一四四三	傍士榮吉	一四三〇	岡本良太郎	一三七〇	松島誠
一三二〇	松田市太郎	一一二〇	指田義雄	一一〇〇	松方五郎
一一〇〇	松方正熊	一一八〇	田中熊三郎	一一八〇	津田七五郎
一一四五	井原五兵衛	一一〇〇	辰野宗義	一〇〇〇	岩崎宰
一〇〇〇	大泉辰四	一〇〇〇	川上政彦	一〇〇〇	茂木七郎右衛門

新高製糖株式會社

貸借對照表 (大正五年六月三十日現在)

株	五〇〇,〇〇〇.〇〇〇	未拂	一,五〇〇,〇〇〇.〇〇〇
法定積立金	八八,〇〇〇.〇〇〇	達株	二三〇,六二七.二一〇
機械建築減價補積立金	三六二,〇〇〇.〇〇〇	地	五四九,八三七.〇〇〇
配當準備積立金	一〇〇,〇〇〇.〇〇〇	物	一,六九三,一〇〇.〇〇〇
使用人扶助恩給基金	二〇,〇〇〇.〇〇〇	場	一〇八,七三五.〇〇〇
使用人身元保證積立金	六一,五三八.四一〇	道	九六〇,五九四.〇〇〇
支拂未濟配當金	二七六.〇〇〇	備	一七,四四七.四六〇
未納稅金	六五〇,〇〇〇.六〇〇	品	五八,九三五.八六〇
未拂金	二四三,一四四.八六〇	農事	二二六,二四九.四四〇
預受金	六〇二,一七一.六二〇	前貸	三六八,八七一.三九〇
假受金	三八〇,二九九.六八〇	出	一八,二四〇.四〇〇
預有價證券	一一七,七〇〇.〇〇〇	農事	八三,七〇七.〇五〇
購買品	一一三,六一〇	假	九一六.六七〇
前期繰越金	九三,七九九.七〇〇	改良糖廠買收勘定	四,九六二.一五〇
當期利益金	一,八〇三,一二〇.三七〇	假拂	一六六,五〇〇.〇九〇

損益計算書 (自大正四年七月一日起至大正五年六月三十日)

合	九,五二二,一六四.八五〇	大阪工場建設假拂金	四九二,二四五.三三〇
製糖收入	五,〇四四,三六五.〇二〇	受取手形	三六,一八一.八八〇
雜項收入	三五,七五〇.三九〇	酒精稅金	一四六,八六六.三四〇
製造費販賣費及税金	二,九四二,七二三.三三〇	次年度製糖勘定	五〇,三九九.七六〇
鐵道費	五〇,七二三.三一〇	有價證券	一一七,七〇〇.〇〇〇
改良糖廠買收費消却金	六〇,〇〇〇.〇〇〇	繰越製成品	二,一二五,七八七.一〇〇
利息	一〇,〇五七.三七〇	擔保預金	五八五.〇〇〇
營業費	二一七,二七四.三三〇	銀行勘定	五四三,五四四.〇九〇
合計	三,二八〇,七七八.三四〇	金替貯	一,八八四.三〇〇
		振替貯	八,二七五.七二〇
		合計	九,五二二,一六四.八五〇

當期利益金 一、八三三、二〇三、七〇
前期繰越金 九三、七九九、七〇〇

法定積立金 九二、〇〇〇、〇〇〇
機械建築減價補積立金 四五八、〇〇〇、〇〇〇
配當準備積立金 四〇〇、〇〇〇、〇〇〇
災害準備積立金 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
株主配當金(年一割) 三五〇、〇〇〇、〇〇〇
同特別配當金(年七分) 二四五、〇〇〇、〇〇〇
使用人扶助恩給基金 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
役員賞與及交際費 九五、〇〇〇、〇〇〇
後期繰越金 一三六、九二〇、〇七〇
合計 一、八九六、九二〇、〇七〇

重役氏名
取締役社長 高島小金治
取締役男爵 大倉喜八郎
取締役 松江春次
監查役 門田正經
大株主氏名
常務取締役 牧山熊二郎
取締役 淺田知定
監查役 川瀬周次

帝國製糖株式會社
貸借對照表 (大正五年六月三十日現在)

株 五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	未 資 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
法 八八二、〇〇〇、〇〇〇	土 地 七、一五、二六二、三四五
別 途 積立金 一五〇、〇〇〇、〇〇〇	建 物 四四七、三〇六、〇一三
社 員 積立金 二二、六一〇、九三〇	鐵 道 六四三、二八九、四九五
借 入 金 一〇八〇、〇〇〇、〇〇〇	什 器 三六、五五九、九三六
支 拂 手 形 一、二八四、四九〇、四七〇	機 械 一、二八一、二二〇、六九二
假 受 金 五五、四三二、四〇八	貯 蓄 四、五〇三、〇〇〇
未 拂 稅 金 三〇一、一四〇、〇八二	貯 藏 物 七四、三一八、〇五八
未 拂 配 當 金 四三、八六五、〇〇〇	銀 行 七二、七四八、三七〇
未 拂 出 張 所 金 一〇九、九二〇、〇〇〇	保 證 金 四〇、〇三九、〇〇〇
東 京 出 張 所 金 一〇八、九五〇、七二〇	供 託 金 四〇、九一五、〇〇〇
恩 給 扶 助 基 金 一三、五〇〇、〇〇〇	取 付 手 形 一、二八〇、八四二〇
前 期 繰 越 金 八七、八八九、三七四	貸 付 金 三五四、六八二、〇七五

當期利益金

一、四〇八、五三七、八四八

七八

合計

九、五四五、七〇八、八三二

損益計算書

(自大正四年七月一日至大正五年六月卅日)

製 品 收 入 之 部
土地鐵道及雜收入

三、〇七六、二七九、二〇〇
二二七、一一二、九八八
三、三〇三、三九二、一八八

營 業 支 出 之 部
製 造 費 費

四〇三、五三一、六〇二
一、四九一、三二二、七三八
一、八九四、八五四、三四〇

假 出 金 三三、三〇六、八四五
未 收 入 金 九、四六二、七四〇
委 託 品 店 金 二八〇、九七二
他 他 店 品 一、〇九九、二九七、七五〇
製 成 工 事 一、〇七一、六一、〇〇〇
未 成 工 事 一、八八四、六三二
改良糖廠買收費 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
次年度農事假拂金 四四〇、七八三、七八三
南 投 線 建 設 費 二一〇、六四三、九七四
神 戶 工 場 六七六、二一五、六九二
購 耕 地 金 二〇九、五一〇、一九〇
金 銀 在 高 三、一六八、八五〇
合 計 九、五四五、七〇八、八三二

利 益 金 處 分

當 期 利 益 金 一、四〇八、五三七、八四八
前 期 繰 越 金 八七、八八九、三七四

合 計

一、四九六、四二七、二二二

法 定 積 立 金 七五、〇〇〇、〇〇〇
別 途 積 立 金 一五〇、〇〇〇、〇〇〇
使 用 人 恩 給 扶 助 基 金 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
財 產 減 價 償 却 金 三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
改 良 糖 廠 買 收 償 却 金 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
役 員 賞 與 金 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
株 主 配 當 金 (年 一 割) 三 四 〇 〇 〇 〇 〇 〇
同 特 別 配 當 金 (年 六 分) 一 七 〇 〇 〇 〇 〇 〇
後 期 繰 越 金 二 四 一 〇 〇 〇 〇 〇
合 計 一、四九六、四二七、二二二

重 役 氏 名

取 締 役 社 長 山 下 秀 實
取 締 役 安 部 幸 之 助
取 締 役 山 中 隣 之 助
取 締 役 柵 瀬 軍 之 佐
監 查 役 松 元 泰 正

常 務 取 締 役 松 方 正 熊
取 締 役 山 口 誠 太 郎
取 締 役 松 岡 富 雄
取 締 役 牧 山 清 砂
監 查 役 田 中 善 助

七九

監查役 川上俊介

監查役 林烈堂

大株主氏名

八八〇〇	安部幸之助	六三〇〇	松方正熊	六一五〇	安部幸兵衛
五〇〇〇	松元泰正	五〇〇〇	山口誠太郎	三六〇〇	川上政彦
三五〇〇	山口達太郎	二〇〇〇	近藤虎三郎	二〇〇〇	山下秀實
一九八〇	林瓊	一七四〇	林子瑾	一二〇〇	山中隣之助
一〇〇〇	蓬萊生命保險會社	一〇〇〇	小島勇之助	一〇〇〇	松岡富雄
一〇〇〇	大泉辰四				

明治製糖株式會社

貸借對照表

(大正五年三月三十一日現在)

負債之部		資産之部	
株	金	未拂込株	金
法定積立金	二,〇〇〇,〇〇〇.〇〇	土地	三,〇七五,〇〇〇.〇〇
配當準備積立金	四二〇,〇〇〇.〇〇	建物	六二一,七四二.四八三
使用人恩給扶助基金	一,〇〇〇,〇〇〇.〇〇	機械	一,九八五,三九七.九二七
	二〇〇,〇〇〇.〇〇		三,三五九,六八八.一三二

支拂未濟配當金	二,六八九,四二五	鐵道	一,七九五,四三〇.八〇六
未納税金	二,六八五,三六〇.二〇〇	什器及家畜	九〇,八一九.七九一
支拂手形	一,一七八,二一五.九六〇	戶畑工場建設費	三〇一,一七五.八六一
預リ金	八六八,五二五.二四一	原料糖及貯蓄品	三五五,八〇三.〇七六
保證預リ金	三七,三七五.〇〇〇	繰越製成品	三八六〇,六〇二.三八七
預リ有價證券	一一五,〇〇〇.〇〇〇	甘蔗前貸及土地貸金	八三七,五〇〇.八四九
原料糖買掛金	四〇,五四一.五九〇	甘蔗栽培假拂	四七七,〇四九.五七三
前期繰越金	一一〇,三四三.八二五	甘蔗運搬前貸金	一〇二,三四八.〇〇〇
当期利益金	一,六四七,七一四.一〇八	肥料立替金	一〇五,七五三.五四〇
		税金假拂	一一一,三四一.六九四
		次年度農事假拂	二二,八九九.〇六八
		假掛金	一一〇,二九九.五五八
		賣掛金	一一八,九四七.〇一五
		受取手形及有價證券	一,三八〇,四一七.五二〇
		銀行預金	七八,八八三.八四〇
		未納稅擔保預金及同有價證券	一五八,八一六.八六〇
		契約保證金	二六二,五四〇.五〇〇
		金銀	二三六,八六九
合計	二〇,三一五,七六五.三四九	合計	二〇,三一五,七六五.三四九

損益計算書 (大正五年前半期)

收入之部		支出之部	
製糖收入	一〇,一四三・三九・九四七	製糖費及税金	七三六〇・〇二六・二六九
鐵道收入	三四,八九九・七一〇	販賣費及營業費	六四三,六二九・九〇三
農事收入	二二,二〇〇・七九七	鐵道費	七七,九六四・〇七八
雜項收入	七一,九五九・六三三	農事費	三五,一八一・二四〇
利息	四三,三六六・四七〇	雜項損	二,二〇〇・九五九
合計	一〇,二八六・七一六・五五七	合計	八,二一九・〇〇二・四四九
當期利益金	二,一六七・七一四・二〇八	法定積立金	九〇,〇〇〇・〇〇〇
內 使用人恩給扶助基金	二〇,〇〇〇・〇〇〇	重役手當金	九〇,〇〇〇・〇〇〇
減價引除金	五〇〇,〇〇〇・〇〇〇	株主配當金(年一割)	五三五,五〇〇・〇〇〇
再差引	一,六四七・七一四・一〇八	同特別配當金(年三分)	一三三,八七五・〇〇〇
當期純益金	一,二〇〇,三三三・八二五	配當準備積立金	七〇〇,〇〇〇・〇〇〇
前期繰越金	一,七六八,〇五七・九三三	後期繰越金	二一八,六八二・九三三
合計	一,七六八,〇五七・九三三	合計	一,七六八,〇五七・九三三

重役氏名		大株主氏名	
專務取締役社長	相馬 半治	增田 增藏	一〇,三三二 安部 幸兵衛
專務取締役	有島 健助	川義 親	二,七二三 中村 房次郎
取締役	薄井 佳久	森村 開作	二,三六八 今村 繁三
取締役	武井 守正	鈴木 辨藏	一,六八〇 岩 永 郷
取締役	谷井 千次郎	山田 陽朔	一,六八〇 男 森村 市左衛門
監査役	川原 義太郎	後宮 信太郎	一,五〇〇 增田 嘉兵衛
		朝吹 常吉	一,四二八 原 六 郎
專務取締役	高木 鐵男		
取締役	小川 鈞吉		
取締役	植村 澄三郎		
取締役	千葉 平次郎		
監査役	山本 直良		
監査役	森村 開作		

一三四四	山本達雄	一三四四	近藤友右衛門	一三八八	山口達太郎
一二〇九	淺田銀行	二二〇〇	朝田權四郎	一二八〇	增田與一
一二七三	柵橋悅次郎	一一二八	小池國三	一二〇〇	若尾鴻太郎
一〇八八	茂木惣兵衛	一〇四〇	高木七五郎	一〇〇八	井上 周
一〇〇八	荒川新十郎	一〇〇〇	第一生命保險會社	一〇〇〇	增田源次郎
一〇〇〇	山口玄洞	一〇〇〇	橫濱生命保險會社	一〇〇〇	高廣次平
一〇〇〇	瀧 信四郎	一〇〇〇	山田松三郎	一〇〇〇	興業貯蓄銀行

臺南製糖株式會社

貸借對照表 (大正五年六月三十日現在)

株	負債之部	株	資產之部
法定積立金	三〇〇〇〇〇〇〇〇	未拂込株金	一六五〇〇〇〇〇〇
固定資本消却積立金	一〇六〇〇〇〇〇	土地	一〇一五六九三九五
職員恩給扶助基金	一九〇〇〇〇〇〇	建築物	一三三、四九五、一五二
職員身元保證金	二七〇〇〇〇〇	機械器具	六六四、八一六、八〇五
預り金	七〇五一、五〇〇	鐵道	二九、六六九、八七一
	三〇八四、六八一		二三一、三〇〇、七六八

支拂未濟配當金	七二八、九〇〇	農具家畜	二、三四六、七〇四
保證預り金	六七二、五〇〇	什器	二〇、四二六、三九二
買掛金	三二六、八一、三一〇	製糖事業繼承費	一三五、九六四、七七六
未納稅金	七、二四五、〇〇〇	契約保證金	三、二〇四、八〇〇
未拂入金	二三、一四八、八〇〇	銀行預け金	一八、三五六、五六〇
假收入金	三三五、〇四八、七一二	受取手形	一〇、〇〇〇、〇〇〇
前期繰越金	一六〇、九三、八一	賣掛金	二八二、九六〇、九三六
前期利益金	一九九、〇一〇、三〇二	甘蔗前貸及土地貸金	一一〇、二二六、五六六
合計	三、六五七、〇六五、九四六	肥料立替金	三四、二九三、九〇八
		製糖貯藏物品	四〇、五九〇、五六五
		貯藏物品	二六、二〇七、三一一
		蔗苗勘定	四八、八三六、二九五
		假支出入金	五九、二一一、四八一
		未收入金	五七、八二八、五
		母苗圃勘定	三、九七五、七七〇
		貸下開墾地	四、三七二、一〇〇
		次期農事勘定	二二、四四四、三〇四
		金銀勘定	一一、二一七、二八二
		合計	三、六五七、〇六五、九四六

損益計算書 (自大正四年七月一日至大正五年六月卅日)

收入之部		支出之部	
製品賣上代金	八三三,〇一五.三〇四	前期繰越製品	九五,七〇九.一六八
繰越製品勘定	四〇,五九〇.五六五	製造費	二三,五四二.五〇三
農事收入	二三,三三三.七九二	營業費及販賣費	一一,九六九.三六四
鐵道收入	二,五三六.一〇〇	農事費	二二,三四八.八九二
雜收入	一六,七六〇.六九〇	鐵道費	二五,八四八.〇六四
合計	九一五,二三六.四五一	利息	一五,七一四.二二〇
前期繰越金	一九九,〇一〇.三〇二	税金	一九四,三三二.三二六
當期利益金	一六,〇九三.八一	雜損	五四一.九〇〇
合計	二一五,一〇四.一三三	修繕費	九,三三七.一八四
		合計	七一六,二二六.一四九
法定積立金	一〇,〇〇〇.〇〇〇	固定資本消却積立金	二〇,〇〇〇.〇〇〇
職工恩給扶助基金	三,九〇〇.〇〇〇	株主配當金(年一割)	一三〇,八〇〇.〇〇〇
後期繰越金	一六,〇〇〇.〇〇〇		
合計	二一五,一〇四.一三三		

重役氏名		役員賞與金	
取締役社長 鈴木梅四郎	常務取締役 川上熊吉	一六,〇〇〇.〇〇〇	
取締役 河井芳太郎	取締役 原邦造	三四,四〇四.〇一三	
取締役 岩崎清七	取締役 陳鴻鳴	二一五,一〇四.一三三	
取締役 吳汝祥	取締役兼 麻生誠之		
監查役 安部幸之助	監查役 高津久右衛門		
監查役 里見四郎	監查役 張作人		
監查役 吳純仁			
大株主氏名			
三〇四〇 吳純仁	二五〇〇 原邦造	二五〇〇 高津久右衛門	
二五〇〇 安部幸之助	二三〇〇 陳鴻鳴	一八五五 麻生誠之	
二三〇〇 顏振聲	一〇七五 長尾倉三	一〇〇〇 岩崎清七	
合計			

一一〇〇張 作人 一〇〇〇劉青雲 一〇〇〇鈴木梅四郎

八八

大正五年八月三十日印刷
大正五年九月二日發行

發行者兼副島延一
東京市日本橋區兜町五番地

印刷者三上正孝
東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷所東洋印刷株式會社
東京市芝區愛宕町三丁目二番地

東京市日本橋區兜町五番地

發行所 副島延一商店

- 華客本位にて確實迅速を特色とす
- 大を恐れず小を侮らず懇切が店則
- 現物は端株なりとも懇切に取扱ふ
- 當店の調査部はお取引先の好伴侶
- 株の豫則も會社の内容も迅速報知

東京株式取引所仲買人

東京市日本橋區兜町五番地

副島延一商店

電話通花 一七五〇番 二五三〇番
 特三〇五九番 五四四八番
 受發信符略 號號 (カブトソエジマ)

327
874

終